

第2 点検及び評価の結果（実施計画の点検評価）

★4つの基本目標、11の基本施策、50の実施計画（主な取組・事業）

※令和5年度から通番49は通番44に統合され、49の実施計画になっています。

第2期教育振興基本計画									
基本目標	基本施策	施策の方向性	総計	通番	主な取組・事業（実施計画）	担当課	R5 評価	R6 評価	
1 子どもたちの「生きる力」の育成	(1)学力の充実・向上	①主体的に学ぶ子どもの育成	15	1	主体的・対話的で深い学びを目指す授業づくり	学校教育課	A	A	
			14	2	教科学習の充実と指導方法の調査研究	学校教育課	B	B	
			13	3	英語（外国語活動・外国語）と国際理解教育の推進	学校教育課	B	B	
				4	読書活動の充実（小・中学校）	学校教育課	B	B	
				5	家庭における学習習慣の確立（小・中学校）	学校教育課	B	B	
			②育ちと学びをつなぐ教育の推進	一部11	6	就学前・小学校・中学校の連携推進	学校教育課	A	A
	(2)心の教育の推進	①道徳性を育む教育の推進		7	道徳教育の充実	学校教育課	B	A	
				8	実態に即した生徒指導（学級経営等）	学校教育課	B	A	
				9	人権教育の充実（小・中学校）	学校教育課	B	B	
			②豊かな人間性を育む体験活動の推進		10	体験活動の充実	学校教育課	B	B
	(3)健康・安全教育の推進	①健康教育・安全教育・食育の推進		11	健康教育の推進	学校教育課	B	B	
				12	安全教育（防犯・交通安全）及び防災教育の推進	学校教育課	A	A	
				13	安全管理の充実	学校教育課	A	A	
				14	食育の推進と安全・安心な給食の提供	学校教育課	A	A	
			②体力向上の取組の推進		15	学校体育・スポーツ活動の推進（小・中学校）	学校教育課	B	B
	(4)きめ細かな支援の充実	①特別支援教育の推進		16	特別支援教育の充実	学校教育課	A	A	
				17	関係機関との連携による発達障がいなどの早期支援	学校教育課 教育支援センター	A	A	
			18	学校における指導体制及び学習環境の充実	学校教育課	A	A		
		②教育的支援が必要な子どもへの相談・支援体制の充実		19	いじめの問題等への対策	学校教育課	B	A	
				17	教育的支援が必要な子どもへの支援体制整備	教育支援センター	B	A	
	(5)変化の激しい時代を生き抜く力を育む教育の推進	①キャリア教育の推進		21	キャリア教育の推進	学校教育課	A	B	
			22	英語（外国語活動・外国語）と国際理解教育の推進	学校教育課	—	—		
	②グローバル化など社会の変化に対応した教育の推進	再掲	16	プログラミング教育・ICTを活用した教育の推進及び情報活用能力の育成	学校教育課	A	A		
2 持続可能な教育環境整備推進のため	(6)学びを支える環境の整備	①学習環境等の整備・充実		23	指導内容に対応した教材、備品の配備	学校教育課 教育総務課	B	A	
				24	就学や進学に対する支援体制の充実	学校教育課 教育総務課	A	A	
			19	25	学校施設安全・快適整備	教育総務課	A	A	
		20	26	学校施設再整備事業	教育総務課	A	A		
	(7)よりよい学校づくりの推進	③教職員にとって働きがいのある環境づくり		27	持続可能な学校指導体制の環境整備	学校教育課	A	B	
			①教職員の資質能力の向上		28	教職員研修事業	教育支援センター	A	B
					29	地域とともにある学校づくり	学校教育課	A	A
②開かれた学校づくり				30	外部人材の活用	学校教育課	A	B	
	(8)生涯を通じた多様な学びの充実と人権教育の推進	①生涯を通じた学びの機会の充実	63	31	公民館市民講座開設事業	中央公民館	B	B	
64			32	中央生涯学習センター事業	生涯学習課	B	B		
			33	社会教育推進事業	生涯学習課	B	B		
②地域に広がる学びへの支援		再掲	再掲	34	公民館市民講座開設事業【再掲】	中央公民館	—	—	
		62	34	各種団体サークル等活動支援事業	中央公民館	B	B		
③人を育む読書活動の推進	再掲	再掲	35	図書館サービスの推進・充実事業	図書館	A	B		
	再掲	再掲	36	読書活動の充実（小・中学校）【再掲】	学校教育課	—	—		
(9)文化・スポーツの振興と文化財の保存活用	①文化・芸術の振興	56	36	人権教育・啓発推進事業	生涯学習課	B	B		
		再掲	再掲	37	人権教育の充実（小・中学校）【再掲】	学校教育課	—	—	
		66	37	長岡京芸術劇場推進事業	文化・スポーツ振興課	B	B		
	②スポーツの振興	67	38	文化活動推進・支援事業	文化・スポーツ振興課	C	C		
		69	39	総合型地域スポーツクラブ推進事業	文化・スポーツ振興課	B	B		
		70	40	スポーツ交流推進事業	文化・スポーツ振興課	A	A		
		71	41	スポーツ施設環境の整備	文化・スポーツ振興課	C	B		
再掲	再掲	42	学校体育・スポーツ活動の推進（小・中学校）【再掲】	学校教育課	—	—			
68	42	総合的な文化財保存活用の推進	文化財保存活用課	A	A				
4 地域の学びの場につながる	①地域ぐるみでの育成活動の推進	25	43	地域見守り活動の推進	生涯学習課	B	C		
		23	44	地域学校協働推進事業（注） （旧：地域で支える中学校教育支援事業）	生涯学習課	C	C		
			45	家庭教育に関する学びの機会の充実	生涯学習課	A	B		
	②家庭教育への支援の充実		46	教育に関する保護者相談体制の充実	教育支援センター	A	A		
		24	47	児童館子どもの居場所づくり事業（子育てサロン）	北開田児童館	A	A		
		再掲	再掲	48	家庭における学習習慣の確立（小・中学校）【再掲】	学校教育課	—	—	
			21	48	放課後児童クラブ育成事業	生涯学習課	A	A	
			22	49	すくすく教室推進事業（注）	生涯学習課	—	—	
(11)子どもを健全に育む場の充実	②体験・交流の場の充実	24	50	児童館子どもの居場所づくり事業（子どもの遊び場等）	北開田児童館	A	A		

A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上） C：目標の一部を達成できなかった
B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度） D：目標を達成できなかった

（注）令和5年度から、通番49は通番44に統合されました。

基本目標Ⅰ

子どもたちの「生きる力」の育成

基本施策(1) 学力の充実・向上 (通番1~6)

基本施策(2) 心の教育の推進 (通番7~10)

基本施策(3) 健康・安全教育の推進 (通番11~15)

基本施策(4) きめ細かな支援の充実 (通番16~20)

基本施策(5) 変化の激しい時代を生き抜く力を育む教育の推進
(通番21・22)

基本目標Ⅰ

学識経験者の主な意見

<通番1「主体的・対話的で深い学びを目指す授業づくり」>

「主体的に思考・表現する学習」や「子どもが協働し、学び合う活動」を進めていくことは非常に重要である。一方で、従来型の一斉指導に関しては、知識を伝達する上で必要となる場面もある。教育内容や各単元、授業構成の中で、適切な指導法の選択と全体として子どもが主体的に学べることを意識した授業展開を促すことが重要であり、次年度以降にも記載されている「課題解決に取り組みたいと思える問い」を設定することは重要である。

<通番2「教科学習の充実と指導方法の調査研究」>

各児童・生徒に合った個別の指導・支援の充実は子どもの学びを保障する観点からも重要である。

各学校に学力向上サポーターや特別支援教育支援員を継続的に配置し、特別な支援や配慮が必要な児童・生徒への個別指導をさらに充実させ、個々の実態に応じたきめ細やかな指導を強化してほしい。

基礎基本の学力の定着については、子どもによる差異にも着目し、複数の方策を学校や自治体内で共有し、全ての子どもの学びを深めていくことをこれからも心掛けてほしい。

<通番3「英語(外国語活動・外国語)と国際理解教育の推進」>

英語教育への充実は、引き続き行ってほしい。また、国際理解教育に関しては、留学や受け入れ以外にも、身近な異文化交流もできると思うので、多文化共生を意識した場面を設定し、各地域の特性を活かして様々な観点で行ってほしい。

<通番4「読書活動の充実(小・中学校)」>

学校図書館司書による環境整備や読書啓発活動を継続するとともに、授業や委員会活動を通じて児童・生徒が読書に親しむ機会を増やすべきである。学年が上がるにつれての二極化の原因(読書の時間が取れないのか、何か別途、課題があるのか)についてもさらに検討してほしい。

適切な蔵書の整理については、古典で大切な本もあるので、どのような視点で整理するのかということ子どもの実態に合わせて考えてほしい。新鮮な情報が得られる書架も大切であるが、一方で、古典と呼ばれる本の中から学ぶこともあるので、古い本の「適切な廃棄」の「適切さ」をしっかりと検討してほしい。

<通番5「家庭における学習習慣の確立(小・中学校)」>

次年度以降の対応にも記載があるように、「学習意欲を高める」ことを含めて、家庭学習も含めた子どもの学習習慣をしっかりと身につける方策を家庭と連携しながら行ってほしい。また、家庭への理解啓発を強化するとともに、子どもの発達段階に応じた適切な宿題や課題を設定することで、主体的な学習習慣を定着させる工夫が必要と考える。

<通番6「就学前・小学校・中学校の連携推進」>

保幼小連携の中で、一貫性のある子どもの保育・教育を通して、「どのような子ども」に育てほしいかの共有が今まで以上に必要である。また、中学校の学校選択制について、「希薄な人間関係で学ぶ」ことなどによる支援や登下校の安全等、学校のサポートの面等の複雑な課題に対応するため、家庭と地域や教育相談員と他の機関との連携をさらに密にする必要がある。また、小学校から中学校への円滑な連携を進めるための工夫や研修も求められている。

<通番7「道徳教育の充実」>

道徳以外の授業や教育活動においても道徳の視点は培える。学校全体でどのような子どもを育てたいのかという「カリキュラム・マネジメント」を意識した取組をしてほしい。グループ学習の活動が昨年度よりも増加している点は大きい。

<通番8「実態に即した生徒指導(学級経営等)」>

複雑化・困難化している児童生徒の抱える課題に対しては、「チーム学校」として適切な連携を実施することでできることがある。引き続き、専門的な支援や指導が行える環境を実施して欲しい。また、社会規範やマナーを身につける取り組みには、大人である教職員・家庭・地域の人の姿勢も重要である。これらが連携しながらその姿勢を子どもに見てもらうことも重要である。

<通番9「人権教育の充実(小・中学校)」>

人の気持ちがわかる人間になりたいという回答が90%以上あることは、これまでの人権教育の賜物であり、更なる充実を目指して継続して実施して欲しい。一方で、少しポイントが下がっている点については、なぜそのような回答になったのかの分析も必要である。

<通番12「安全教育(防犯・交通安全)及び防災教育の推進」>

安全教育は、安全・安心な環境づくりにつながる。安全であることは子どもが学校に行くことの基本となる。引き続き、安全・安心に関する教育の実施とともに、場合によっては、家庭・地域と連携しながら実施することも検討してよいのではないかと。

<通番15「学校体育・スポーツ活動の推進(小・中学校)」>

コロナ禍における運動の制限がなくなり、運動量が確保できる中で、個々の子どもに合わせた対応も必要となる。また、制限がある中での活動・対応の見識は重要なことになるので、蓄積することも行ってほしい。

<通番16「特別支援教育の充実」>

個別指導計画を各学校で作成されている割合が100%であることは、個別に支援を有する子どもにしっかりとサポートすることができていることと読み取れる。一方で、増加に伴い、サポート人員の配置や教員向けの個別指導計画等の研修も必要となるのではないかと考える。

<通番17「関係機関との連携による発達障がいなどの早期支援」>

様々な子どもへの対応に向けて、発達検査ができる人の活用については、教員向けの研修や専門家との連携が重要になる。また、課題にも挙がっていた小中の連携については子どもの学びが途切れることがないようにしっかりと行ってほしい。

<通番19「いじめの問題等への対策」>

いじめの問題等の対応において、重大事案発見件数が0件であることは非常に重要である。特に、件数が0件であることだけではなく、状況把握と早期発見を行い、いじめなどの認知をしっかりとし、その上で、重大事案とならないように早期支援している点が非常に重要である。件数よりも、このような萌芽を早急に対応することは引き続き実施してほしい。トラブルの増加は課題であるが、そのことを学校が認識して対応していることが何よりも重要である。

認知件数はいじめの早期発見・対応につながっているが、悪口や無視といった人間関係のトラブルが増加傾向にある。いじめ等対策指導員による学校巡回を継続し、全教職員のいじめに対する認識と組織としての対応力を高めるための研修を続けることが重要である。また、不登校児童・生徒への支援を充実させるため、教育支援センターや校内教育支援センターの取り組みを見直し、子どもの実態に沿った活動内容に改善していくことが必要と考える。

<通番20「教育的支援が必要な子どもへの支援体制整備」>

教育的支援が必要な子どもへ様々な支援を行っていることは重要である。学校に行くのが楽しいと思う児童生徒の割合が80%以上であることは、一定程度評価できる。今後も子どもへの個別の対応や見守り等の教師からのフォローは実施してほしい。一方で、「楽しくない」と回答している子どもへのケアは大切である。なぜ、「楽しくない」と感じているのかを各学校で把握し、一過性のものではなく継続的な点については、特に個別相談に応じる体制を整え、子ども全員が「楽しい」と思えるような環境を作ってほしい。

<通番22「プログラミング教育・ICTを活用した教育の推進及び情報活用能力の育成」>

ICT機器を課題解決や意見発表だけでなく、一人ひとりの学習状況に合わせた個別最適な学びのツールとして活用できるよう、指導の計画性を高める必要がある。何でもICTに頼りすぎるようなことではないので、何が適切なのか検討し、必要に応じたICT教育を行って欲しい。また、AIやインターネットが学校外でも使用できる環境が増加している中で、情報リテラシー等の子どもが知っておくことを十分に考えて指導してほしい。

教員間でICT活用スキルに個人差があるため、教員が自信を持ってタブレット端末を授業に取り入れられるように、引き続き教員向けの研修やヘルプデスクによる運用支援を継続する必要がある。

基本目標	Ⅰ	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 Ⅰ
基本施策	(Ⅰ)	学力の充実・向上	
実現したい学びの姿	新学習指導要領実施を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を推進し、主体的に学ぶ子どもを育てています。また、保育所(園)・こども園・幼稚園・小学校が連携し、育ちと学びをつなぐ教育の円滑な接続が図られています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
		主体的・対話的で深い学びを目指す授業づくり	—
	事業の概要		
	習得・活用・探究などの学びの過程の工夫や学ぶ意欲を高める取組を推進するとともに、教科等横断的な活動や体験的な活動を行い、主体的に思考・表現する学習活動や子ども同士が学び合い、協働しあう場の充実に努めます。		

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標①	これまでに受けた授業で、課題の解決に向けて自分で考え取り組んでいたと考えている児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙))				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小6)76.2 (中3)72.3 (令和元年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	(小6)77.7 (中3)85.7	(小6)73.4 (中3)78.7	(小6)76.7 (中3)79.1	(小6)77.3 (中3)84.3	
	目標指標②	学校の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると考えている児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙))				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小6)75.4 (中3)73.7 (令和元年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	(小6)79.2 (中3)81.0	(小6)77.4 (中3)78.2	(小6)79.9 (中3)79.5	(小6)84.0 (中3)87.3	
	内容	<ul style="list-style-type: none"> 各学校では、主体的・対話的で深い学びの実現を目的として、課題解決の要素が含まれた学習を行う授業を展開しました。 「総合的な学習の時間」では、課題の設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現という一連の学習の中で、仲間と課題解決に向けて話し合い、目標を達成するという学習を行いました。その過程では、他の教科で学んだ知識や技術を活用したり、意見を出し合ったりしながら、主体的に思考・表現することや、協働することの大切さを学びました。 現行の学習指導要領の内容や趣旨を踏まえ、「外国語活動の充実」「道徳の教科化」「プログラミング教育を含む情報活用能力の育成」等の取り組みを通して、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業を展開しました。 教職員の指導力向上を目指し、学習指導要領を踏まえた学習指導と評価に関する研修を実施しました。 					

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向けて子どもたちが話し合う活動や教科等の横断的な学習、体験的な活動を行い、主体的に思考・表現する学びや、対話的で協働的な学びが進み、目標指標①②ともに前年度より増加しました。 指標②について、計画策定時に指標の対象としていた質問項目の文言の一部が「広げたり」から「新たな考え方に気付いたり」に変更されたため、単純な比較にはなりません。小学校6年生は4.1ポイント、中学校3年生は7.8ポイント増加し、指標を達成することができました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 授業においては、従来型の一斉指導とともに、今後も「主体的に思考・表現する学習」や「子ども同士が協働し、学び合う活動」を充実させる必要があります。 課題の解決に向けて自分で考え取り組んだり、友達と話し合うことにより自分の考えを深め、広げられるきっかけとなるような問いを、授業の中で設定する必要があります。

次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	<p>Ⅰ:計画通りに進めることが適当</p> <ul style="list-style-type: none"> 各校での研修や実践交流、市主催の各種研修等を通して、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくりに対する、教職員の意識を高め、指導力向上と授業改善を進めます。 授業の中で児童生徒が課題解決に取り組むとき、一人で取り組む場合と友達と取り組む場合がありますが、そのいずれにおいても、課題解決に取り組むたいと思えるような問いを、授業の中で設定できるよう、指導力向上を図ります。

基本目標	Ⅰ	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 2
基本施策	(Ⅰ)	学力の充実・向上	
実現したい学びの姿	新学習指導要領実施を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を推進し、主体的に学ぶ子どもを育てています。また、保育所(園)・こども園・幼稚園・小学校が連携し、育ちと学びをつなぐ教育の円滑な接続が図られています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
		教科学習の充実と指導方法の調査研究		7,207,202
	事業の概要			
	個に応じたきめ細かな指導など、学校の課題に応じた指導の工夫に努めるとともに、学力の状況の把握・分析を踏まえた授業改善を行い、各校での実態に即したカリキュラムの充実・開発に取り組みます。			

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	全国学力・学習状況調査の正答数分布状況(平均正答数1/2以下の割合)				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	【小学6年生】 国語6.6算数3.6 【中学3年生】 国語7.0数学8.7 英語3.8 (令和元年度)	目標	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少
	実績	【小学6年生】 国語3.9算数4.2 【中学3年生】 国語4.3数学7.6 ※英語実施なし	【小学6年生】 国語7.2算数6.4 参考(理科6.5) 【中学3年生】 国語2.1数学9.8 参考(理科8.6) ※英語実施なし	【小学6年生】 国語3.7算数7.5 【中学3年生】 国語5.1数学9.5 英語9.5	【小学6年生】 国語5.5算数7.3 【中学3年生】 国語8.1数学12.6 ※英語実施なし		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校では指導目標を明確化、導入・展開の工夫、ICT機器の有効活用等により効果的できめ細かな指導を行いました。 ・各校の実態と課題に応じて、専門家を校内研修会の講師として招聘し、教職員の資質・指導力の向上に努めました。 ・全国と京都府の学力・学習状況調査を分析し、その結果を校長会議等で共有し、調査結果をホームページに掲載しました。 ・少人数授業、少人数学級、チーム・ティーチング等を実施し、個に応じた学習を進め、学力の向上を図りました。 ・中学校に学力向上サポーターを配置し、基礎基本の学力定着と学習意欲向上に取り組みました。 ・令和4年度から長二中校区の小中学校において実施した「非認知能力の向上による学力向上実践研究」について、小中学校教員対象に専門家による講演(2回)と実践報告を行いました。自主的に取り組む研究校(4校)を指定し、授業づくりに関する実践研究を行いました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力学習状況調査の結果では、小中学校国語と中学校数学で学力低位層(平均正答数の1/2以下)が前年度より増加しましたが、全国・京都府ともに同様に増加しており、本市は全教科で全国・京都府の割合を下回っています。 ・研究指定校の公開授業や研究発表会を通して、教職員の指導力向上につながりました。 ・タブレット端末を効果的に活用したことで、児童生徒の興味関心を高め、学習内容の理解を深めました。 ・長二中校区各小中学校での実践報告や専門家による講演を通して、市内小中学校教職員の共通理解を図りました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の学力が定着していない児童生徒や、特別な支援・配慮が必要な児童生徒への個別の指導・支援の充実が必要です。

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・各校に応じた学力向上サポーターや特別支援教育支援員を配置し、個々の児童生徒に応じたきめ細かな支援を行います。 ・各学校での教職員研修や専門家の指導助言を通して、授業力向上と授業改善を進めます。 ・実践研究の成果を市内小中学校に展開し、各校の課題に応じた授業改善や学力向上を支援します。

基本目標	I	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 3
基本施策	(I)	学力の充実・向上	
実現したい学びの姿	新学習指導要領実施を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を推進し、主体的に学ぶ子どもを育てています。また、保育所(園)・こども園・幼稚園・小学校が連携し、育ちと学びをつなぐ教育の円滑な接続が図られています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
		英語(外国語活動・外国語)と国際理解教育の推進	10,219,366
	事業の概要		
	発達段階を踏まえた4技能(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)の系統的な指導を実施します。また、小・中学校において、異文化を学ぶ機会や発表の場を設け、国際理解教育を推進します。		

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標①	英語技能検定3級レベル相当以上の割合				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	43.5	目標	50以上	50以上	50以上	50以上	50以上
	(令和元年度)	実績	55.3	51.9	44.9	61.9	
	目標指標②	京都府学力診断テスト質問紙調査における、「外国語(英語)の勉強は好きだった」の回答率				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	74.0	目標	75以上	75以上	75以上	75以上	75以上
	(令和元年度)	実績	66.8	※府調査:実施なし	54.5	56.1	
	目標指標③	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと考えている児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙))				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小6)64.6 (中3)61.6 (令和元年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	※国調査:質問項目削除	※国調査:質問項目削除	(小6)69.1 (中1)64.7	※国調査:質問項目削除	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校にネイティブの英語指導助手(外国人AET)を2名配置し、英語に加え、異文化や多様な生活習慣を学ぶ機会を提供しました。 ・小学校に英語専科教員と外国語活動指導員(日本人AET)7名を配置し、英語に対する興味関心を高める指導体制を構築しました。 ・AETのミーティングや授業の事前打合せを通して、円滑で充実した授業を実践できるよう連携を図りました。 ・中学3年生の英語学習意欲向上のため、英語技能検定の検定料を助成しました。 ・20周年を迎えた中学校米国短期交換留学事業において、アーリントンへの訪問を実施し、コロナ禍等で中止となっていた、アーリントンから長岡京市への訪問団受け入れを再開しました。次年度の訪問に向けて、団員を募集・選考し、英語学習や日本文化を伝える学習会を開始しました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校では、低・中学年は日本人AETと担任の連携指導、高学年は英語専科教員中心の指導によりきめ細かく充実した外国語教育を実施しました。 ・中学3年生対象の英語技能検定の検定料助成では、インターネットでの受検方式(S-CBT方式)を継続して助成対象とし、受検機会を拡充しました。 ・英語技能検定3級レベル相当以上の割合は、目標を達成する61.9%でした。 ・指標②については、質問項目の変更により「外国語(英語)の学習は好きだった」で比較した結果、実績は56.1%となり、目標を達成することができなかったものの、前年度からは増加しました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、児童生徒へ分かりやすく充実した授業を実施することが必要です。 ・英語学習のみならず、国際交流や異文化交流への興味関心を高めるため、米国短期交換留学事業や英語技能検定の受検料助成制度等の積極的な周知・勧奨が必要です。 ・20周年を迎えた姉妹都市アーリントンとの短期交換留学事業の継続が必要です。

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	I:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校では、英語専科教員や日本人AETの配置を継続し、外国語教育の充実を図ります。 ・学習活動の一層の充実に向け、タブレット端末の活用を行う等、児童生徒への分かりやすく効果的な教育の提供を行います。また、教職員の研修やAETのミーティングも継続します。 ・中学3年生対象の英語技能検定の検定料助成制度の充実を図ります。 ・中学校米国短期交換留学事業では、再開した訪米事業に加えて、訪日受け入れを通して、異文化や異なる生活習慣を学ぶ機会となるよう継続して取り組みます。

基本目標	I	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 4
基本施策	(I)	学力の充実・向上	
実現したい学びの姿	新学習指導要領実施を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を推進し、主体的に学ぶ子どもを育てています。また、保育所(園)・こども園・幼稚園・小学校が連携し、育ちと学びをつなぐ教育の円滑な接続が図られています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
	読書活動の充実(小・中学校)	13,022,483	学校教育課
	事業の概要		
豊かな学びを育むために読書活動の更なる推進を図ります。 学校図書館司書の配置等の図書館環境の整備を行うとともに、読書に関する啓発活動を行います。また、適切な蔵書の更新についても行います。			

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標①	児童(小学生)一人あたりの図書室図書の読書冊数				単位	冊
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		目標	34.5	35.0	35.5	36.0	36.5
	34.2(令和元年度)	実績	38.8	37.3	38.8	37.2	
		目標	6.0	6.5	7.0	7.5	8.0
	5.8(令和元年度)	実績	6.6	6.5	5.5	5.7	
		目標	生徒(中学生)一人あたりの図書室図書の読書冊数				単位
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		目標	6.0	6.5	7.0	7.5	8.0
	5.8(令和元年度)	実績	6.6	6.5	5.5	5.7	
実績		<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省の定める「学校図書館図書基準」を目標に新規図書の購入及び蔵書の整理を行いました。 ・各校に学校図書館司書を配置し、図書館環境の整備や啓発等を行うことにより、読書活動の推進を図りました。 ・読み聞かせやブックトーク、紙芝居を行うなど、ボランティアの協力も得ながら、児童生徒が本に親しむための環境づくりを行いました。また、選書会を行い、必要な図書を吟味しました。 ・児童生徒が学校図書館に親しむことができるよう、委員会活動の一環として、ポスター作りや行事の立案などを行いました。 					

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館司書による図書館環境の整備や日々の読み聞かせ、夏休みにおける図書室開放の取組を通して、児童生徒の読書活動の充実を図っています。 ・適切な図書計画により蔵書冊数の充実を図るだけでなく、選書会の機会等を通して、児童生徒のニーズと時代に合った図書を把握し、図書を揃えています。 ・一人あたりの年間読書冊数は、小学校では目標を達成しました。中学校では目標を達成できなかったものの、昨年度より増加しています。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・学齢が上がるにつれ読書冊数が減少し、読書をする・しないの二極化が進んでいます。 ・適切な蔵書の更新(古い本の廃棄)が必要です。

次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I:計画通りに進めることが適当</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校図書館図書基準」を目標に蔵書整備を行い、選書会等を活用し更新を継続します。 ・各校に配置した学校図書館司書による図書館環境整備や読書活動の充実に向けた取組を、今後も計画的に進めます。 ・読書離れや読書習慣の二極化を改善するため、図書館環境整備を継続するとともに、授業や委員会活動等を通じて児童生徒への読書啓発に取り組みます。 </td> </tr> </tbody> </table>	方向性	対応策等	I:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校図書館図書基準」を目標に蔵書整備を行い、選書会等を活用し更新を継続します。 ・各校に配置した学校図書館司書による図書館環境整備や読書活動の充実に向けた取組を、今後も計画的に進めます。 ・読書離れや読書習慣の二極化を改善するため、図書館環境整備を継続するとともに、授業や委員会活動等を通じて児童生徒への読書啓発に取り組みます。
方向性	対応策等				
I:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校図書館図書基準」を目標に蔵書整備を行い、選書会等を活用し更新を継続します。 ・各校に配置した学校図書館司書による図書館環境整備や読書活動の充実に向けた取組を、今後も計画的に進めます。 ・読書離れや読書習慣の二極化を改善するため、図書館環境整備を継続するとともに、授業や委員会活動等を通じて児童生徒への読書啓発に取り組みます。 				

基本目標	I	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 5
基本施策	(I)	学力の充実・向上	
実現したい学びの姿	新学習指導要領実施を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を推進し、主体的に学ぶ子どもを育てています。また、保育所(園)・こども園・幼稚園・小学校が連携し、育ちと学びをつなぐ教育の円滑な接続が図られています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
	家庭における学習習慣の確立(小・中学校)	—	学校教育課
	事業の概要		
学習習慣、生活習慣の形成に向けての、家庭との連携による取組を推進します。			

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	学校の授業時間以外の勉強時間が平日1日当たり30分に満たない子どもの割合(全国学力・学習状況調査)				単位	%
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小6)7.4 (中3)19.7 (令和元年度)	目標	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少
		実績	(小6) 9.2 (中3) 10.5	(小6) 18.0 (中3) 15.6	(小6) 13.0 (中3) 20.0	(小6) 17.6 (中3) 16.9	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学校では、家庭学習の大切さや意義を伝えるとともに、宿題や課題を通して学習内容の定着を図りました。 ・令和5年度に引き続き、令和6年度全国学力・学習状況調査の結果を市ホームページに掲載し、本市児童生徒の学力・学習状況について保護者や市民の皆さんに伝えるとともに、更なる学力の向上に向けた家庭の協力を促しました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)</p> <p>達成状況</p> <p>・令和5年度の状況と比較した実績値は、小学校6年生では4.6ポイント増加となり、目標を達成できませんでした。中学校3年生で3.1ポイント減少し目標を達成できました。</p>
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が主体的に家庭学習に取り組めるよう、発達段階に応じた適切な宿題や課題を与える必要があります。 ・生活習慣や学習習慣の改善のために、家庭への理解啓発を図るとともに、学力低位層の児童生徒の個々の状況を把握し、支援することが必要です。

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	I:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣、家庭学習の大切さや意義についての理解が深まるよう、引き続きお便りや懇談会等を通して周知や啓発を図ります。 ・授業内容に合った宿題や課題を与えることで、児童生徒の学習意欲を高め、主体的な学習習慣が定着するよう取り組みます。

基本目標	1	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 6
基本施策	(1)	学力の充実・向上	
実現したい学びの姿	新学習指導要領実施を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を推進し、主体的に学ぶ子どもを育てています。また、保育所(園)・こども園・幼稚園・小学校が連携し、育ちと学びをつなぐ教育の円滑な接続が図られています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
		就学前・小学校・中学校の連携推進	74,408
	事業の概要		
	幼稚園や保育所等の幼児の小学校への体験入学の実施や、保育所(園)・幼稚園・こども園と小学校の教員による、保幼小連携会議での互いの教育・保育内容の相互理解を推進します。また、幼児期と児童期をつなぐスタートカリキュラムや、中学校の「学校選択制」の実施など、小・中学校の連携強化に努めます。		

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標①	もうすぐ1年生事業に取り組む小学校数				単位	校
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		10(令和元年度)	目標	10	10	10	10
			実績	10	10	10	10
D (取組)	目標指標②	部活動の参観公開や小学校と教育活動の連携を行っている中学校数				単位	校
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		4(令和元年度)	目標	4	4	4	4
			実績	4	4	4	4
内容	<p>《もうすぐ1年生事業》 幼児の小学校への円滑な移行を促進するため、以下の取組を行いました。 ・小学校紹介スライドの幼児教育施設への配付 ・年長児対象の小学校体験(小学生との交流、施設見学、グラウンド遊び、授業体験等) ・幼児教育施設職員による入学後児童参観、小学校教職員と懇談会 ・幼児教育施設と小学校間の連絡会議(市内10小学校、4公立保育所、5私立幼稚園、8民間保育園、3認定こども園) ・「長岡京市保幼小連携会議全体会(講演会・交流会・研修会・実践報告)」3回</p> <p>《小中連携》 ・進学したい中学校を選ぶことができる「学校選択制」を実施するにあたり、小学生が中学校を訪問する学校公開(授業参観や部活動見学・体験)を実施しました。 ・小中連携担当教員が専門性を活かして、小学校の授業(体育、音楽)を受け持ち充実した学習ができました。</p>						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の不安を軽減、解消するだけでなく、「やってみたい」という気持ちを持つことができ、小学校生活への期待を高める取組となりました。 ・保幼小の垣根を越えた交流や研修により、教育・保育内容の相互理解が進み、児童・幼児に対する指導や支援を一層充実させることができました。 ・幼児とふれあう取組に、小学校児童自らアイデアを出し、主体的に取り組むことで、自己有用感を高める良い機会となりました。 ・各種研修会や交流会を通じて、接続期カリキュラムの重要性や意義についての職員の意識を高めました。 ・「学校選択制」に伴う学校公開(授業参観や部活動見学・体験)を実施することにより、小学生の中学校進学への不安が期待へと変わることにつながりました。 ・小中連携担当教員が小学校で授業をすることで、小学生が中学校の授業イメージを持てるとともに、小中学校間の情報交流等の連携がより円滑になりました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを取り巻く状況が多様化するなか、幼小接続・連携の重要性が高まっており、本市がこれまで築いてきた連携体制や接続の取組を、より充実させていくことが必要です。 ・保幼小連携の更なる深化には、公開保育や研究発表会への積極的な相互参加が重要です。そのため、日常的な参観等による交流機会の創出と、参加しやすい体制づくりが必要です。また、今後、体験型・主体的な活動を効果的に取り入れ、より一貫性のある保育・教育内容を目指し、幼小一体となって接続期カリキュラムの充実を図る必要があります。 ・「学校選択制」の実施に伴い、各校に、希薄な人間関係の中で学ぶ生徒への支援や、校区外から自転車通学する生徒の安全確保等が求められるため、学校をサポートする体制も必要です。

次年度以降の対応	
A (行動)	<p>方向性</p> <p>1:計画通りに進めることが適当</p> <p>対応策等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を共通指標として、幼児教育施設職員と小学校教職員間の交流・研修を実施します。 ・小学校が主体となり幼児教育施設と協力・連携しながら、体験型・主体的な活動を効果的に取り入れた一貫性のある保育・教育を目指し、接続期カリキュラムの具体化・充実を図ります。 ・生徒のニーズに応えられるよう学校選択制を継続実施するとともに、特色ある学校教育の推進に努めます。 ・中学校入学後、様々な支援が必要な生徒のサポートについては、小中学校と教育委員会が情報共有を行い、連携を取り合いながら進めていきます。

基本目標	1	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 7
基本施策	(2)	心の教育の推進	
実現したい学びの姿		道徳的な価値について理解を深められているとともに、文化・芸術活動、郷土文化を通じて自尊心や自己肯定感が高まり、体験活動を通じて豊かな人間性が養われています。	

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	道徳教育の充実		—	学校教育課
	事業の概要			
「考え、議論する道徳」として、児童生徒が話し合い、互いに学び、深め合う授業による、道徳的な判断力、心情、基本意識やそれを行動に移すことができる実践意欲と態度を育成します。また、家庭や地域社会と一体となった道徳の実践力を促す環境をつくります。				

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	これまで受けた道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと考えている児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙))				単位	%
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小6)81.7 (中3)75.9 (令和元年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	(小6)82.8% (中3)83.7%	(小6)77.8% (中3)86.7%	(小6)80.6% (中3)85.1%	(小6)88.3% (中3)90.3%	
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「特別の教科 道徳」の学習では、児童生徒が道徳的課題を「自分事」として捉え、考えたり感じたりする時間を設定しました。物事を多面的・多角的に考え、議論したり、自分で深く考えたりすることを通して、実践的な授業を行いました。 ・児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、評価することを通して、児童生徒の道徳的な判断力や心情、実践意欲、態度の育成を図りました。 ・各校での道徳教育の実践について、参観日に保護者や地域の方に授業を公開したり、地域や家庭へ学校だより等を通して情報発信したりしました。 					

「実現したい学びの姿」に対する評価			
令和6年度の達成状況			
C (評価)	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況 ・目標指標については、小・中学校ともに前年度よりも増加し、達成できました。 ・「特別の教科 道徳」の教科の時間を中心に話し合い、互いに考え、深め合う学習を通して、道徳教育の充実に図りました。 ・道徳の時間に限らず、その他の教科においても児童生徒の道徳性を育む教育活動を実践しました。
	課題等	・子どもたちの道徳性を育むためには、道徳の時間の学習だけでなく、他教科も含めた横断的な学習を含む教育活動全体での実践や、学校と家庭、地域社会と連携した実践が必要です。	

次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	1:計画通りに進めることが適当 ・子どもたちの道徳性を養うため、引き続き「特別の教科 道徳」の時間の学習のみならず、各教科の学習や各領域の活動も含めて、教育活動全体での実践を推進します。 ・子どもたちの道徳実践力を育成するため、引き続き学校と家庭や地域社会との連携に取り組みます。

基本目標	1	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 8
基本施策	(2)	心の教育の推進	
実現したい学びの姿		道徳的な価値について理解を深められているとともに、文化・芸術活動、郷土文化を通じて自尊感情や自己肯定感が高まり、体験活動を通じて豊かな人間性が養われています。	

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	実態に即した生徒指導(学級経営等)		—	学校教育課
	事業の概要			
児童生徒の生活実態の把握や内面理解による児童生徒個々の課題解決や、児童生徒と教職員の相互の心のふれあいによる信頼関係の構築に努めます。				

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標①	学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙))				単位	%
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)75.0 (中)76.0 (令和元年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	(小)72.2 (中)74.4	(小)65.4 (中)77.6	(小)70.6 (中)73.3	(小)85.6 (中)87.8	
	目標指標②	非行防止教室の開催状況				単位	%
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
(小)100 (中)100 (令和元年度)	目標	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	
	実績	(小)100 (中)100	(小)90 (中)100	(小)90 (中)100	(小)100 (中)100		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の各教科における学習活動や学校行事での取組を通して、児童生徒同士での話し合いや意思決定の機会を多く設定しました。 ・「心とからだの健康観察アプリ」の活用や朝の健康観察(小学校)、教育相談期間(中学校)を中心に、児童生徒の様子や生活実態を把握し、内面理解に努めることにより、個々の課題の解決や信頼関係の構築に努めました。 ・京都府警からの出前授業を活用し、全ての小中学校において非行防止教室を実施しました。 ・学級活動や道徳科の学習、学校行事等を通して、いじめ防止や社会規範やマナー等への意識を高め、適切な人間関係の育成に努めました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標指標①については、小中学校ともに前年度よりも増加しました。目標指標②についても、全ての小中学校で目標を達成しました。 ・さまざまな教育活動において、話し合い等を通して、人との信頼関係や人間関係づくりの育成を図り、教職員が児童生徒の抱える課題の実態を把握し、個々に応じた支援・指導を行うことができました。 ・タブレット端末を効果的に活用し、各教科の学習活動や学級活動、学校行事を通して児童生徒間の信頼関係づくりに繋げていくことができました。 ・非行防止教室の開催や、道徳科の学習を通して、社会規範やマナーについての意識の向上を図ることができました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の抱える課題が複雑化・多様化しているため、各校の教職員や保護者に対して、専門的助言を要すケースや関係機関との連携が必要なケースが増えています。

次年度以降の対応	
A (行動)	<p>方向性</p> <p>対応策等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の学習活動や学級活動、学校行事での取組を通して児童生徒の関係づくりを育成します。 ・非行防止教室を引き続き実施し、児童生徒が社会規範やマナーを身に付けられるよう取り組みます。 ・複雑化、多様化する児童生徒の課題に対して、各校において児童生徒の実態把握と適切な指導、組織的な対応、関係機関等との情報共有と連携に努めます。

基本目標	1	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 9
基本施策	(2)	心の教育の推進	
実現したい学びの姿		道徳的な価値について理解を深められているとともに、文化・芸術活動、郷土文化を通じて自尊感情や自己肯定感が高まり、体験活動を通じて豊かな人間性が養われています。	

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	人権教育の充実(小・中学校)		—	学校教育課
事業の概要				
すべての人の基本的な人権を尊重する心とあらゆる人権問題(同和問題、障がい者等の人権、性の多様性への理解等)の解決に向かう態度の育成を目指し、各校での人権教育全体計画に基づく発表の場の充実に努め、人権学習を実施します。				

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標①	人権教育全体計画を作成し、これに基づき人権学習を実施している学校の割合				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)100 (中)100 (令和元年度)	目標	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100
		実績	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100
	目標指標②	人の気持ちが分かる人間になりたいと思っている児童生徒の割合(京都府学力診断テスト(児童生徒質問紙))				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小4)95.0 (中1)98.0 (中2)97.0 (令和元年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	(小4)93.9 (中1)96.3 (中2)94.5	※府調査:実施なし	(小4)91.7 (中1)95.4 (中2)96.3	(小4)91.3 (中1)96.7 (中2)93.6	
	内 容	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の人権意識を高めるため、日々の学習指導に加え、学年や異学年での交流、人権週間の取組、人権学習の公開授業などを実施しました。 人権ポスターや人権標語の作品応募にも積極的に参加しました。 児童生徒の人間関係づくりと自尊感情の向上を図るため、授業ではグループでの話し合いや交流の機会を積極的に取り入れました。 体育大会、1年生を迎える会、文化祭などの行事を通して、児童生徒が互いを理解し、望ましい人間関係を築く機会を持つことができました。 					

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 全小中学校で人権教育全体計画を作成し、各学年の実態に合わせた取組内容を実施することができました。(目標指標①) 京都府学力診断テストに代わり、令和5年度から実施された京都府学力・学習状況調査において、「人の気持ちが分かる人間になりたいと思っている児童生徒の割合」が前年度と比べて、中学1年生では1.3ポイント増加しましたが、小学4年生で0.4ポイント、中学2年生で2.7ポイント減少し、目標を一部達成できませんでした。(目標指標②)
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 各校において、人権教育を計画的・継続的に実施していく必要があります。 様々な学校行事や教育活動を通して、人の気持ちを分かることや信頼関係づくりの大切さを実感する機会を充実させる必要があります。

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	各校の人権教育全体計画に基づき、各校の実態と児童生徒の発達段階に合わせた人権学習や学校行事等を実施することで、基本的な人権を尊重する心と様々な人権問題の課題解決に向かう態度の育成に努めます。

基本目標	1	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 10
基本施策	(2)	心の教育の推進	
実現したい学びの姿	道徳的な価値について理解を深められているとともに、文化・芸術活動、郷土文化を通じて自尊心や自己肯定感が高まり、体験活動を通じて豊かな人間性が養われています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課	
	体験活動の充実		54,923	学校教育課
	事業の概要			
市小中学校美術展や吹奏楽演奏会等を開催します。また、地域の文化財見学等、郷土の歴史に触れる機会を創出します。				

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	今住んでいる地域の自然や歴史について関心がある児童生徒の割合(京都府学力診断テスト(児童生徒質問紙))				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小4)66 (中1)63 (中2)33 (令和元年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	(小4)56 (中1)52 (中2)31	※府の調査: 実施無し	(小4)62.0 (中1)44.1 (中2)37.5	(小4)65.0 (中1)45.0 (中2)34.4	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 文化・芸術活動や体験活動の機会創出のため、小中学校美術展や中学校吹奏楽部の定期演奏会を開催しました。 小学校では、生活科、社会科、総合的な学習の時間などを活用し、タケノコ掘りやナスの農園見学を通して市の特産品に触れたり、文化財見学や校区探検を通して地域の歴史や文化を学んだりしました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 各校で工夫しながら、地域の自然や歴史、特産物に触れる取組を実施しました。 京都府学力診断テストに代わり、令和5年度から実施された京都府学力・学習状況調査において、「今住んでいる地域の自然や歴史について関心がある児童生徒の割合」が前年度と比べて、小学4年生で3ポイント、中学1年生で0.9ポイント増加しましたが、中学2年生では3.1ポイント減少したため、目標を一部達成できませんでした。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が文化・芸術活動や郷土文化に関心を持ち、深く考えるためには、実地見学や体験活動などを通して芸術や地域の自然、歴史に直接触れる機会を確保することが重要です。

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
方向性	1:計画通りに進めることが適当
	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の興味関心を高め、学びを深める文化・芸術活動や体験活動を充実させるため、引き続き内容の工夫や改善に努め、充実を図ります。

基本目標	I	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 11
基本施策	(3)	健康・安全教育の推進	
実現したい学びの姿	子どもたちが健やかな身体をつくり、健康で安全な生活を送るため、正しい知識が身に付けられているとともに、子どもたちの体力の向上が図られています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	健康教育の推進		—	学校教育課
	事業の概要			
健康(こころとからだ)への関心を高める保健指導や、警察や関係機関の方による薬物乱用防止教室等を実施します。また、家庭と連携した、健康な心身をつくるための生活習慣の定着に向けての指導、時代に即した性教育を行います。				

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標①	薬物乱用防止教室を実施している学校の割合(学校保健等に関する調査)				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)100 (中)100 (令和元年度)	目標	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100
		実績	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100
	目標指標②	朝食を毎日食べている児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙))				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)96.5 (中)94.5 (令和元年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	(小)96.6 (中)95.0	(小)95.0 (中)93.9	(小)94.8 (中)91.1	(小)94.2 (中)91.7	
	内容	<ul style="list-style-type: none"> 保健体育科の学習内容と関連付けながら、全小中学校において薬物乱用防止教室を実施しました。 京都府警の出前授業を活用し、薬物乱用防止指導員によるDVDやスライド資料を用いた学習を行うなど、薬物乱用の根絶に向け、発達段階に応じた指導を行いました。 小中学校においては「保健だより」や「給食だより」、ランチルームでの食の指導等を通じて、子どもたちや保護者に対し朝食を食べることの大切さを伝え、健康教育に関する周知・啓発を行いました。 長期休暇(春休み、夏休み、冬休み)前には、朝食を食べることを含め、生活習慣に留意して過ごすことを指導しました。また、多くの小学校では長期休暇明けによりよい生活習慣について考える取り組みを行いました。 児童生徒が性に関して正しく理解し、一人一人を尊重する考え方や判断ができるように、発達段階に応じて、保健体育科や道徳の授業、特別活動の時間等を活用し、学校教育全体を通じて指導しました。 					

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度) 達成状況 ・薬物乱用防止教室を実施し、心身の健康について正しい知識を身に付けるための学習と指導を行うことができました。 ・おたよりや長期休暇前の指導、委員会活動による給食時間の校内放送等を通して、朝食を摂ることや生活リズムの大切さを周知しましたが、朝食を毎日食べている児童生徒の割合は、小学校では、昨年度よりやや減少しましたが、中学校ではやや増加しました。
	課題等	・薬物乱用防止教室については、子どもたちが関心を持って取り組み、学習内容を定着させるためには、可能な限り保健体育科の教育課程の指導時期に合わせて行うことが望まれますが、他の学校行事や取組、関係機関との調整が必要です。 ・子どもたちの健康で安全な生活につなげるため、朝食を食べることの大切さについて、家庭と連携しながら、各小中学校にて継続して指導をする必要があります。

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	I:計画通りに進めることが適当	・小中学校において、子どもたちが心身ともに健康で安全な学校生活を送ることができるよう、さまざまな取組を継続して実施します。 ・健康な心身をつくるため、子どもたちの生活習慣の定着を目指して、朝食を食べることの大切さを引き続き周知・啓発するとともに、家庭と連携した健康管理と指導を継続します。

基本目標	I	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 12
基本施策	(3)	健康・安全教育の推進	
実現したい学びの姿	子どもたちが健やかな身体をつくり、健康で安全な生活を送るため、正しい知識が身に付けられているとともに、子どもたちの体力の向上が図られています。		

概要			
	実施計画名称	決算額(円)	担当課
P (概要)	安全教育(防犯・交通安全)及び防災教育の推進	—	学校教育課
	事業の概要		
児童生徒に危機回避能力の基礎が身に付くよう、災害時や登下校時の通学路の危険から身を守るための指導や交通安全指導、避難訓練などを計画的に実施します。			

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	防犯、交通安全教室を実施している学校の割合				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		目標	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100
	(小)100 (中)100 (令和元年度)	実績	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100
内 容		<ul style="list-style-type: none"> ・小学校では、3・4年生の社会科の授業で防犯・防災・交通安全について、5年生の社会科の授業で自然災害について学習しました。中学校では、保健体育科の授業で防犯・交通安全・自然災害について学習しました。 ・防犯教育については、小中学校ともに外部講師を招き、各学校の状況に応じて対象学年を定め、非行防止教室や薬物乱用防止教室を実施しました。 ・交通安全教育について、小学校では、市交通政策課による自転車の乗り方に関する交通安全教室等を実施しました。中学校では、交通安全教室を実施するだけでなく、市交通政策課で職場体験をした生徒が、交通安全教室の準備を手伝い、交通安全に関する取り組みの理解を深めました。 ・各学校で、地震、火災、風水害等を想定した避難訓練を実施しました。 					

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校ともに、外部講師を招いて防犯および交通安全に関する教室を実施したことにより、児童生徒の犯罪に関する知識が増え、防犯・規範意識等が向上しました。 ・小中学校での在学期間を通して、発達段階に応じた防犯、交通安全、自然災害に関する学習を系統的に行うことで、身の回りの危険を予測し、未然に防ぐ方法や、事故・事件・災害発生時の対応について、児童生徒の理解が深まりました。 ・地震や火災などを想定した避難訓練の実施を通して、有事の際に自分の身を守るための避難行動を体験的に学ぶことができました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・不測の事態に備え、外部講師を招いた各種教室の開催、小中学校の各発達段階に応じた教科等での学習、避難訓練などを計画的に実施することで、児童生徒の防犯・交通安全・防災に対する意識をより一層高めることが重要です。

次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	<p>I:計画通りに進めることが適当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非行防止教室をはじめとした防犯・防災・交通安全の取り組みを、より効果的に実施するため、外部組織や講師を招聘する機会や時期を計画的に設定します。 ・防犯・防災・交通安全に関する各種教室の実施や、小中学校における発達段階に応じた教科等での学習、そして避難訓練等の取り組みを、引き続き実施していきます。

基本目標	1	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 13
基本施策	(3)	健康・安全教育の推進	
実現したい学びの姿	子どもたちが健やかな身体をつくり、健康で安全な生活を送るため、正しい知識が身に付けられているとともに、子どもたちの体力の向上が図られています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
		安全管理の充実		19,871,581
	事業の概要			
	学校における保健管理や、定期的な施設・設備の安全点検等を実施するとともに、危機管理マニュアルの作成や学校安全計画を推進し、学校の安全管理を充実します。また、通学路における安全の確保に努めます。			

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	小学校通学路の安全点検対策調査の実施				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	全校区実施(令和元年度)	目標	全校区実施	全校区実施	全校区実施	全校区実施	全校区実施
		実績	全校区実施	全校区実施	全校区実施	全校区実施	
	内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・消防点検・電気点検・エレベーター点検・遊具の点検等、法律に基づいた各種法定点検を実施し、指摘があったものについては緊急を要するものから優先的に、修繕を行いました。 ・樹木医による樹木点検も実施し、危険な樹木については伐採を行いました。 ・学校施設や設備等に不具合が発見された事象については、随時修繕等を行いました。また、空調に不具合が生じた際は、児童生徒の健康に悪影響を及ぼさないよう、速やかに対応しました。 ・学校環境衛生基準に照らし合わせ、換気・採光・照明および保温等の点検を実施しました。そのうえで、基準を満たしていないものについては、カーテンでの採光調整・電灯の交換・エアコン設定温度の調整等を行うにより、改善を図りました。 ・危機管理マニュアルの作成や更なる充実について、年度当初の校長会議内で案内しました。 ・例年通り、全小学校区を対象に「通学路安全対策調査」を実施しました。地域の方等からは、各小学校を通して135件の調査結果が報告され、それを元に、警察や道路管理者等、関係機関の協力のもと、電柱幕の掲示や、薄くなった道路標示の引き直し等の対策を、きめ細かに行いました。 					

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)
	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、継続的に各取組を実施し、課題を把握したうえで、解決に向けた計画的な対応を図ることにより、通学路を含めた学校内外の安全を確保することができました、 ・学校施設や設備等の点検・改善を随時実施することにより、安全管理が充実するだけでなく、不具合箇所の特定と、その改善状況等も整理することができ、危機管理マニュアルの作成・更新や学校安全計画の立案に役立ちました。
	課題等	・通学路の安全対策において、根本的な対策が困難かつ長期間を要する危険箇所の対策が課題です。

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	1:計画通りに進めることが適当 <ul style="list-style-type: none"> ・根本的な解決が困難であったり、対策ができたとしても長期間を要する危険箇所については、関係機関と協議を続け、継続的に取り組んでいきます。 ・年度を超えて対策が必要な案件に関しては、「通学路安全対策調査」に限らず、「交通安全プログラム」といった長期・広域・組織横断的な案件を取り扱う、別の取組でも取り扱う等の工夫をします。

基本目標	I	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 14
基本施策	(3)	健康・安全教育の推進	
実現したい学びの姿	子どもたちが生涯を通して健やかな心身をつくり、健康で安全な生活を送るため、正しい知識が身に付けられるとともに、子どもたちの体力の向上が図られています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	食育の推進と安全・安心な給食の提供		453,654,682	学校教育課
	事業の概要			
学校給食を活用した食に関する指導を実施し、食中毒対策や食物アレルギー対応などに努め、安全で安心かつ、栄養バランスのよい魅力あるおいしい学校給食を提供します。				

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	学校給食(副食)の残食率				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)なし (今後測定予定) (中)1.65 (令和元年度)	目標	現状と同程度を維持	現状と同程度を維持	現状と同程度を維持	現状と同程度を維持	現状と同程度を維持
		実績	(小)1.6 (中)2.3	(小)1.6 (中)1.7	(小)1.4 (中)1.5	(小)1.5 (中)1.4	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチルーム給食や給食時間の放送、動画視聴などを通して、給食への理解を深める取組を行いました。 ・学校薬剤師の立入検査や市職員による巡回指導を実施し、衛生的な給食提供に努めました。 ・児童生徒の食物アレルギー対応を確実にを行うため、アレルギー様式の見直しを行いました。各校での対応にあたっては、アレルギー事故防止のため全教職員の共通理解のもと行いました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校では前年度よりわずかに増えていますが、低い残食率となっています。 ・中学校では前年度と比べて、さらに残食率を下げることができました。 ・小・中学校ともに、バランスのよい魅力ある給食を提供することができました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・献立や季節により残食の多い日があります。 ・喫食量は、学年が上がるにつれ個人差が大きくなっているため、個に応じたバランスの取れた栄養量の摂取についての指導が必要です。

次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	<p>I:計画通りに進めることが適当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食を通して、食に関する指導を継続し、子どもたちの健康推進に取り組みます。 ・食中毒を防止し、食物アレルギー対応を徹底することで、安全・安心で魅力のあるおいしい給食を提供します。

基本目標	I	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 15
基本施策	(3)	健康・安全教育の推進	
実現したい学びの姿	子どもたちが健やかな身体をつくり、健康で安全な生活を送るため、正しい知識が身に付けられているとともに、子どもたちの体力の向上が図られています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	学校体育・スポーツ活動の推進(小・中学校)		1,421,010	学校教育課
	事業の概要			
「全国体力・運動能力調査」の結果を分析し、子どもが運動することの楽しさを実感し、進んで運動する習慣が身に付くような体育の授業づくりの推進や地域人材の活用等を行います。また、部活動への大会出場に係る費用等の一部補助やふるさと納税を活用した各校の遊具購入等や部活動の備品購入を行い、部活動やその他の行事の充実に努めます。				

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	体力・運動能力の総合評価D、E層の児童・生徒の割合(全国体力・運動能力、運動習慣等調査)				単位	%
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小5)男子26.3 女子25.9 (中2)男子30.2 女子7.2 (令和元年度)	目標	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少
		実績	(小5)男子45.7 女子51.5 (中2)男子30.8 女子14.1	(小5)男子38.6 女子31.1 (中2)男子26.2 女子14.5	(小5)男子42.2 女子39.5 (中2)男子26.0 女子15.2	(小5)男子41.2 女子36.8 (中2)男子35.5 女子12.9	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校部活動で、京都府大会・近畿(関西)大会・全国大会に出場した生徒に、選手派遣補助金制度で交通費と宿泊費を補助しました。 ・学校体育・文化活動推進事業補助金制度により、各協議会へ補助金を交付しました。 ・一部の中学校部活動において、専門的な知識や技能を持つ外部講師を招き、指導を受ける取り組みを実施しました。 ・各学校において、体育の授業や部活動などを通して、児童生徒の運動習慣の確立や、体力の向上に取り組みました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種補助金制度による補助金の交付や、外部講師を招いた部活動の実施により、児童生徒の運動習慣や体力の向上につながる体育の授業や遊び、また、部活動等の取り組みの充実が図られました。 ・令和5年度の目標指標の実績と比べ、小学校5年生男子では1.0ポイント、女子では2.7ポイント、中学校2年生女子では2.3ポイント減少しましたが、中学校2年生男子では9.5ポイント増加したため、一部、目標が達成できませんでした。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響により、体育の授業における運動量の確保が課題となっていました。令和6年度は制限が緩和されたため、運動量を確保していくと共に、児童生徒一人ひとりの体力や運動能力に合わせた指導を工夫していく必要があります。

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
I:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、各種補助金制度による補助金の交付や、部活動での外部講師の招聘を実施し、部活動やその他の行事の充実を図ります。 ・児童生徒が運動の楽しさを実感しながら、体力・運動能力の向上を目指せるよう、運動量を確保した授業を積極的に展開していきます。

基本目標	I	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 16
基本施策	(4)	きめ細かな支援の充実	
実現したい学びの姿	障がいや不登校、いじめ・虐待など様々な背景をもつ子どもたちに対し、関係機関と連携し、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導が行われています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
		特別支援教育の充実	28,319,000
	事業の概要		
	合理的配慮を踏まえた個別の教育支援計画等の作成と活用、インクルーシブ教育の視点を踏まえた理解教育の充実に努めるとともに、市支援員の配置による支援を行います。		

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	特別な支援を要する子どもに係る個別の指導計画が作成されている割合				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		目標	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100
	(小)100 (中)100 (令和元年度)	実績	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100
内 容		<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の全ての特別支援学級・通級指導教室において、児童生徒一人一人に個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成し、教育委員会がその作成状況を点検しました。 ・各校の児童生徒の実態に応じ、小学校には特別支援教育支援員、中学校には学力向上サポーターを配置し、それぞれの教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導・支援を行いました。 					

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校においては、児童生徒の支援にかかわり、個別の教育支援計画を用いて保護者との連携をより図ることができました。 ・特別支援教育支援員や学力向上サポーターを配置したことにより、児童生徒の学習面・生活面においてきめ細かな支援、指導を行うことができました。 ・聴覚障がいのある児童生徒へ補聴援助機器の貸出を行い、学習活動への合理的配慮を行いました。 ・中学校2校に通級指導教室を新設し、全小中学校に通級指導教室を設置することができました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校において、特別な支援を要する児童生徒が増加傾向にあります。 ・通級指導教室は、各小中学校に1～2教室の設置となりましたが、通常学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒への支援体制のさらなる充実が求められます。

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、小中学校の実態に応じて特別支援教育支援員や学力向上サポーターを配置し、特別な支援を要する児童生徒一人一人に寄り添ったきめ細やかな支援を行います。 ・児童生徒一人一人の実態と教育的ニーズを踏まえ、個別の教育支援計画等の充実を図るとともに、保護者との連携を強化します。 ・各学校の状況を踏まえた通級指導教室の設置や効果的な運営を推進します。

基本目標	I	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 17
基本施策	(4)	きめ細かな支援の充実	
実現したい学びの姿	障がいや不登校、いじめ・虐待など様々な背景をもつ子どもたちに対し、関係機関と連携し、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導が行われています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
		関係機関との連携による発達障がいなどの早期支援	294,315
	事業の概要		
	特別支援学校等と連携した専門家チームによる巡回相談等を行います。また、教育支援センターとの連携による就学相談等との情報共有に努めます。		

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	関係機関との連携、情報共有				単位	-
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	連携、情報共有 の実施 (令和元年度)	目標	連携、情報共有の実施	連携、情報共有の実施	連携、情報共有の実施	連携、情報共有の実施	連携、情報共有の実施
		実績	連携、情報共有の実施	連携、情報共有の実施	連携、情報共有の実施	連携、情報共有の実施	
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校では、各校の児童生徒の実態に応じて、特別支援学校や盲学校の巡回相談員に巡回相談を依頼し、必要な指導上の助言を受けました。 ・就学前相談では、庁内の関係機関(健康づくり推進課・障がい福祉課・子育て支援課)と情報を共有の上、教育支援センターと学校教育課が連携し、幼児教育施設を訪問しました。新入児の行動観察や指導者・保護者との面談を行い、最も適した学びの場について教育支援委員会で審議しました。 ・各校からの就学相談の依頼については、教育支援センターと学校教育課が連携し、発達検査や保護者面談を行い、早期支援を行いました。 					

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校や盲学校の巡回相談を継続的に受けたことにより、障がいに応じた指導のポイントや教材作成についての理解が深まり、児童生徒への支援が充実しました。 ・就学相談の依頼を受けて発達検査を実施し、適切な支援の方法について、学校・保護者と情報共有ができました。 ・児童生徒の状況に応じて、療育機関、障がい福祉課とも連携をして、児童生徒の個別の課題へのよりよい手立てや学びの場の検討を行いました。 ・就学前機関等を対象とした就学説明会を実施するとともに、年長児の保護者に向けて就学相談のしくみがわかるようリーフレットを作成しました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・就学相談の依頼に適切に対応できるよう、小中学校に就学相談(発達検査)の目的・考え方を周知する必要があります。 ・小学校から中学校への連携が円滑に進むような工夫や研修が必要です。

次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	<p>I: 計画通りに進めることが適当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き就学相談等において関係機関と連携・情報共有を密に図り、児童生徒に必要な支援を早期かつ適切に行います。 ・教育支援委員会等で、就学相談(発達検査)の目的・考え方の周知に努めます。 ・特別支援教育を担当する教員の専門性を高める研修等を行います。

基本目標	I	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 18
基本施策	(4)	きめ細かな支援の充実	
実現したい学びの姿	障がいや不登校、いじめ・虐待など様々な背景をもつ子どもたちに対し、関係機関と連携し、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導が行われています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
		学校における指導体制及び学習環境の充実	-
	事業の概要		
	ながおかしょう“リンク・ブック”の活用や、市特別支援学級担任会や通級指導者担当者会等の実施により、特別支援コーディネーターを中心とした校内の指導体制を確立します。また、通級指導教室の充実に努めます。		

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標①	特別支援コーディネーターを中心とした校内指導の実施				単位	-
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	指導の実施 (令和元年度)	目標	指導の実施	指導の実施	指導の実施	指導の実施	指導の実施
		実績	指導の実施	指導の実施	指導の実施	指導の実施	
	目標指標②	教員は特別支援教育について理解し、児童の特性に応じた指導上の工夫を行っている学校の割合(全国学力・学習状況調査(学校質問紙))				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)100 (中)75 (令和元年度)	目標	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない
		実績	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教育支援センター等関係機関と連携して「マルチトリートメント」等の研修を実施し、特別支援教育に関する理解や指導の充実を図りました。 ・ながおかしょう“リンク・ブック”が活用されるよう教職員への周知に努めました。 ・児童生徒の特性に関する理解を深め、個々の状況に応じた指導上の工夫を行いました。 					

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校では、特別支援コーディネーターを中心に定期的な情報共有を行い、児童生徒一人一人の状況について、的確に把握し対応を検討することでより適切な指導を進めました。 ・保護者との連携のもと、ながおかしょう“リンク・ブック”を活用することで、児童生徒の特性への理解を深め、個々の状況に応じた指導上の工夫を凝らすことができました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の特性の多様化が進む中で、個々の教育的ニーズを的確に把握し、より一層きめ細やかな指導に努める必要があります。 ・特別支援教育を推進する上で、中心的な役割を担う人材の育成と、教職員全体の指導力向上を一層推進していくことが重要です。 ・通級指導教室での指導を必要とする児童生徒の増加傾向を踏まえ、支援体制の更なる充実が求められています。

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
I:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・市特別支援学級担任会や通級指導担当者会等を計画的に実施し、専門性を有する人材育成と指導力向上に努めます。 ・各校では、引き続き特別支援コーディネーターを中心とした研修を重ね、特別支援教育に関する教職員の理解促進と指導力向上に努めます。

基本目標	I	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 19
基本施策	(4)	きめ細かな支援の充実	
実現したい学びの姿	障がいや不登校、いじめ・虐待など様々な背景をもつ子どもたちに対し、関係機関と連携し、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導が行われています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
	いじめの問題等への対策	918,400	学校教育課
	事業の概要		
いじめ等対策指導員を配置するほか、いじめアンケート及び聞き取り調査や各校でのいじめ防止対策推進委員会を実施します。また、府配置のスクールカウンセラーや教育支援センターの教育相談員による教育相談を活用し、いじめについての対策を行います。			

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標①	重大事案発生件数				単位	件数
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	0 (令和元年度)	目標	0	0	0	0	0
		実績	0	0	0	0	0
	目標指標②	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙))				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)98.7 (中)95.9 (令和元年度)	目標	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない
		実績	(小)96.4 (中)97.7	(小)96.1 (中)96.3	(小)96.4 (中)91.2	(小)96.7 (中)94.6	
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回、学校でいじめ調査(いじめアンケート、児童生徒への直接聞き取り)を実施し、「いやな思いをした」と回答した児童生徒には、約3か月後に追跡調査を行い、事象の再発・継続有無を確認しました。併せて、定期的にいじめ対策委員会を開催し、いじめの未然防止・早期発見と早期対応に努めました。 ・いじめ等対策指導員を1~2か月に1回程度各校へ派遣し、生徒指導や不登校、虐待等の状況把握と早期支援に取り組みました。 ・教職員のいじめに対する認識を深め、組織としての対応力の向上を図るため、全小中学校で、いじめ防止に係る校内研修を開催しました。 ・市小中学校校長会議等において、いじめや生徒指導事象に係る情報提供と情報共有を行いました。 					

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの認知件数は、昨年度に比べて小学校で増加し、中学校で減少しました。学校が認知・把握をすることで、いじめの未然防止と早期発見・早期対応につながっていると考えられます。 ・学校が市教委へ定期的な問題事象報告をすることに加え、いじめ事象や生徒指導事象を態様に応じて速やかに報告することで、連携・協力しながら対応することができました。 ・いじめ等対策指導員の学校巡回、児童生徒の出席状況・学習状況・生活環境等の把握、教職員との情報共有により、いじめにつながる事象等の早期発見、早期対応につながりました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校ともに、「冷やかしの悪口」が認知件数の大半を占め、小学校では「仲間はずれ、集団による無視」、中学校では「軽くぶつかられた、遊びのふりをしてたたかれた・けられた」など、グループや集団内での人間関係のトラブルが増加しています。

次年度以降の対応	
A (行動)	<p>方向性</p> <p>I:計画通りに進めることが適当</p> <p>対応策等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の生活環境等を把握し、教職員との情報共有と早期支援につなげるため、いじめ等対策指導員による学校巡回を継続します。 ・全教職員のいじめに対する認識と組織としての対応力を高めるため、「いじめ防止等のために~教職員用ハンドブック~」等を活用した研修を継続します。 ・いじめ対策委員会を中心に各校で教職員間の情報共有を行います。また、スクールカウンセラーや関係機関との連携により、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に組織的に対応します。 ・市小中学校校長会議、教頭会議等で、いじめや生徒指導事象等に係る情報提供や情報共有、意見交流を継続します。

基本目標	I	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 20
基本施策	(4)	きめ細かな支援の充実	
実現したい学びの姿		障がいや不登校、いじめ・虐待など様々な背景をもつ子どもたちに対し、関係機関と連携し、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導が行われています。	

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
		教育的支援が必要な子どもへの支援体制整備	7,558,813
	事業の概要		
	不登校やいじめ、心身の発達、学習や学校生活など様々な課題や相談への対応を行うとともに、不登校児童生徒の学習等の場としてアゼリアひろばの運営、メンタルサポーター(心理の専門家)の派遣など、不安や悩みを抱える子どもへの支援体制を整備します。		

令和6年度の取組								
D (取組)	目標指標	学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙))				単位	%	
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	(小6) 84.7 (中3) 81.4 (令和元年度)	目標	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	
		実績	(小6) 81.3 (中3) 86.0	(小6) 83.2 (中3) 83.9	(小6) 82.9 (中3) 80.5	(小6) 84.4 (中3) 84.2		
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談員による教育相談やプレイセラピー(児童生徒の遊戯療法)、発達検査や就学相談、児童精神科医による来所相談を実施しました。 ・「アゼリアひろば」では、在籍者数の増加や個別対応に応じるために、活動部屋を増設しました。 ・中学校2校、小学校6校に「不登校支援員」を配置し、新設した「校内教育支援センター」の施設環境整備を行い不登校児童生徒の支援を行いました。 ・中学校4校、小学校5校に「心と体の健康観察アプリ」の試行導入を行い、心の小さなSOSの把握に努めました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)
	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談員による教育相談の件数は、延べ件数3,092件(実件数341件)でした。 ・保護者に対しては専門的な立場からカウンセリング等指導助言を行いました。また、教職員に対しても積極的な連携を行い、児童生徒の適切なアセスメントや学校における支援体制整備などの助言を行いました。 ・「アゼリアひろば」や「校内教育支援センター」において、多様な子どもの姿に合わせて、児童生徒の心の変化に配慮しながら丁寧な支援を行うことで、社会的自立に向けて、安心して快適に過ごせる居場所づくりに寄与しました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑化している保護者や指導生徒の問題に対応するため、教育相談員と他の機関とのさらなる連携を図ることが必要です。 ・多様な不登校の姿に対応できる「アゼリアひろば」の取組や活動内容を見直し、より子どもの実態に沿ったものにしていくことが必要です。

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
I: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・「不登校研究部門」を継続し不登校児童生徒の支援を充実させます。令和5年度から取り組んでいる校内教育支援センターの設置と心と体の健康観察アプリの導入を全校に拡充します。 ・不登校の未然防止や校内教育支援センターでの支援を充実させるために、不登校支援員の配置校を拡充します。 ・多様な子どもの姿に対応するために、「アゼリアひろば」における個別対応を充実させます。

基本目標	1	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 21
基本施策	(5)	変化の激しい時代を生き抜く力を育む教育の推進	
実現したい学びの姿	将来の夢や目標を持ち、進路を主体的に選択できるよう、キャリア教育や、グローバル化などの社会の変化に柔軟に対応できる能力を身につける教育を推進しています。また、ICT環境の整備により情報教育のための環境が整っています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
	キャリア教育の推進	687,537	学校教育課
	事業の概要		
体験活動や社会人講師の活用を通して、子どもたちの「学びたい」「働きたい」という意欲を高めるとともに、明確な目的意識を持って自己の進路を選択する力を身に付けるため、発達の段階に応じたキャリア教育を推進します。			

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標①	将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行った学校の割合(全国学力・学習状況調査(学校質問紙))				単位	%
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)60.0 (中)75.0 (令和元年度)	目標	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない
		実績	(小)70 (中)100	(小)80 (中)100	(小)90 (中)100	※国調査:質問項目削除	
	目標指標②	職場見学や職場体験活動を行った学校の割合(全国学力・学習状況調査(学校質問紙))				単位	%
現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
(小)100 (中)100 (令和元年度)	目標	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	
	実績	(小)60 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)90 (中)100		
D (取組)	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校では、将来の自分(なりたい自分)という視点で、仕事や職業もイメージしながら、将来について考えを深める学習を行いました。 ・中学校では学ぶことや働くことについて考えながら自分の適性を知り、将来設計の入り口として自ら進路を選択し、その実現に向けて学習や活動を進めました。 ・小学校では体験活動にも力を入れ、地域の商店を見学して、お話を聞いたり、地元の企業に出前授業を依頼したりしました。ものづくりの楽しさ、仕事や地域の活動にかける思いなどを直接学ぶことができました。 ・中学校では職場体験活動を実施しました。中学2年生が地域の事業所や施設等で様々な体験をすることで、地域の方々の仕事への思いを知るとともに、将来に向け、自分自身を見つめ直す機会となりました。また、様々な分野で活躍されている社会人講師の講演会や出前授業等も実施しました。 					

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験等の実施にあたっては、多様な体験の場が得られるよう地域の事業所等に一層の理解と協力を求めていくことが必要です。
	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・職場見学の目標指標では小学校において目標が達成できませんでしたが、各学校においては、体験活動、見学、講演会、出前授業等を実施し、地域や社会で活躍している方々から直接学ぶ機会をつくりました。 ・職業や社会的貢献について直接学ぶことで、様々な仕事や活動が世の中で果たす役割について、改めて考えることができました。

次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1:計画通りに進めることが適当</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が自分の将来を見据え、職業観や勤労観を身に付けられるよう、家庭生活や学校生活を見直すことから、自分らしい生き方を追求していけるキャリア教育を推進します。 ・児童生徒が学びに向かう力を高め、自ら進路を切り拓くために必要な判断力と実践力を身に付けられるよう、校種間のつながりを意識し、教科等の学習や体験的な活動をさらに充実させます。 ・中学生の職場体験活動については、より充実した体験ができるよう体験先の事業所等と一層の連携を図っていきます。 </td> </tr> </tbody> </table>	方向性	対応策等	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が自分の将来を見据え、職業観や勤労観を身に付けられるよう、家庭生活や学校生活を見直すことから、自分らしい生き方を追求していけるキャリア教育を推進します。 ・児童生徒が学びに向かう力を高め、自ら進路を切り拓くために必要な判断力と実践力を身に付けられるよう、校種間のつながりを意識し、教科等の学習や体験的な活動をさらに充実させます。 ・中学生の職場体験活動については、より充実した体験ができるよう体験先の事業所等と一層の連携を図っていきます。
方向性	対応策等				
1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が自分の将来を見据え、職業観や勤労観を身に付けられるよう、家庭生活や学校生活を見直すことから、自分らしい生き方を追求していけるキャリア教育を推進します。 ・児童生徒が学びに向かう力を高め、自ら進路を切り拓くために必要な判断力と実践力を身に付けられるよう、校種間のつながりを意識し、教科等の学習や体験的な活動をさらに充実させます。 ・中学生の職場体験活動については、より充実した体験ができるよう体験先の事業所等と一層の連携を図っていきます。 				

基本目標	I	子どもたちの「生きる力」の育成	通番 22
基本施策	(5)	変化の激しい時代を生き抜く力を育む教育の推進	
実現したい学びの姿	将来の夢や目標を持ち、進路を主体的に選択できるよう、キャリア教育や、グローバル化などの社会の変化に柔軟に対応できる能力を身につける教育を推進しています。また、ICT環境の整備により情報教育のための環境が整っています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
	プログラミング教育・ICTを活用した教育の推進及び情報活用能力の育成	98,298,255	学校教育課
事業の概要			
ICT機器の活用やプログラミング的思考(論理的思考力)の向上、情報活用能力を育成します。また、ネットトラブルなどから子どもを守るための取組みを推進します。			

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標①	授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思う児童生徒の割合				単位	%
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	85.2(令和元年度)	目標	86.0	86.5	87.0	87.5	88.0
		実績	※国調査:質問項目削除	※国調査:質問項目削除			
	目標指標②	ICT機器の活用により学習課題の解決に向けて考えを深められたと思う児童生徒の割合				単位	%
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	小学生 88.1 中学生 88.3 (令和3年度)	目標			85以上	85以上	85以上
		実績			小学校:90.3 中学校:92.5	小学校:91.4 中学校:94.3	
	目標指標③	情報モラルの指導を実施している学校の割合(教育課程実施状況調査)				単位	%
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
(小)100 (中)100 (令和元年度)	目標	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	
	実績	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	
内容	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度は引き続き「教科の学びをつなぐ、社会課題の解決や一人一人の夢の実現に生かすこと」を目標に、学校生活全般においてタブレット端末を積極的に活用し、児童生徒の探究的な活動がより充実するよう取組を進めました。 教育活動での効果的なICT活用を一層進めるため、授業力向上のための教員向け研修や事例交流を行い、ヘルプデスクによる運用支援を引き続き実施しました。 経年劣化が見られる一部の大型モニターについて機器更新を進めました。 家庭学習の支援を目的に、インターネット環境が整っていない就学援助世帯等を対象にWi-Fiルーターの貸出しを行いました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒は、授業をはじめ、学校行事、委員会活動、家庭学習等で、ICT機器、特にタブレット端末を自ら工夫して活用する機会が増えました。 ICT機器の活用を通して「課題の解決に向けて、自ら考え、取り組むことができたと思う」と回答した児童生徒の割合は、小中学校ともに9割を超え、ICT機器が思考力や主体性を育むツールとして機能していることを示唆しています。 特に中学生においては肯定的な回答の割合が高く、課題解決に向けたICT機器の主体的活用が進んでいるといえます。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒一人ひとりの発達段階に合わせた資質・能力の育成と、学びの深化のため、より計画的な指導が必要です。 児童生徒が日常的にタブレット端末を使用する状況になる中で、課題解決や意見発表、個に応じた学習など、幅広い用途で活用することが必要です。 教員間でICT活用スキルに個人差があるため、引き続き教員向け研修や運用面でのサポート体制が必要です。

次年度以降の対応	
A (行動)	<p>方向性</p> <p>I:計画通りに進めることが適当</p> <p>対応策等</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒がタブレット端末の有用性を実感し、主体的・意欲的に学習に取り組めるよう、効果的な活用を通して質の高い授業づくりを推進します。 児童生徒一人ひとりの個別最適な学びと協働的な学びの充実を図るため、教職員の資質・能力向上のための研修等を実施し、発達段階に応じた分かりやすい指導を行います。

基本目標2

持続可能な教育施策推進のための 環境整備

基本施策(6) 学習環境等の整備・充実 (通番23~27)

基本施策(7) よりよい学校づくりの推進 (通番28~30)

基本目標2

学識経験者の主な意見

<通番23 「指導内容に対応した教材、備品の配備」>

継続的にICTを活用するとともに、一方でICTを活用する教育活動とそうでない教育活動の違いを考えることの必要性があるのではないかと考える。また、物品の老朽化への対応の他にサポート人材やICTを用いた研修の充実などもある。これらの点を課題に挙げていることから、しっかりと取り組みを進めていただきたい。

<通番24 「就学や進学に対する支援体制の充実」>

就学や進学に対する支援体制は、子どもの教育環境を保障する上では重要な内容である。現在の支援を引き続き続けてほしい。また、案内文書の配布などで対応している旨が記載されていたが、文書配布では理解しにくい場合の配慮等、丁寧で継続した対応を続けてほしい。

<通番25 「学校施設安全・快適整備」>

児童の安全・安心な環境づくりのために空調設置は熱中症対策の観点からも必要であり、実施できている状況は大切である。引き続き、安全・安心でかつ快適な環境づくりのためにできることを行ってほしい。

普通教室の空調設備や大型モニターの老朽化が進んでいるため、施設の個別施設計画に基づき、計画的な更新工事を実施する必要がある。中学校の防球フェンスについても、高さ不足や老朽化といった課題への対応が必要と考える。

<通番26 「学校施設再整備事業」>

計画通り、学校施設の建て替え等ができてきている状況は大切である。大規模な学校施設再整備事業では、教育活動を行いながら工事を進めるため、騒音対策や施設の利用制限など、学校や地域との調整、安全対策の徹底が不可欠と考える。

<通番27 「持続可能な学校指導体制の環境整備」>

教職員の1ヶ月の時間外勤務が80時間以上の割合は微増しており、勤務時間外の在校時間の縮減が引き続き課題となっている。教職員の働き方については、実際の業務の軽減等の物理的な側面とともに、負担感の減少といった心理的側面から捉えることも重要である。校務支援システムの活用、会議の精選、外部人材の積極的な活用など、業務効率化と負担軽減につながる取り組みを継続的に推進すべきである。保護者への対応など、複雑化する課題に対し、学校が組織的に対応できるよう、法務相談体制のさらなる充実を検討すべきと考える。

<通番28 「教職員研修事業」>

適切な教職員研修を実施しているが、教職員のニーズに合致した、より専門的で実践的な研修内容を精選して実施していく必要がある。更なる研修の充実のためには、内容面と日程の検討を行う必要があり、内容によりオンラインやオンデマンドや集合研修等を適切な方法で実施することが大切である。

タブレット端末やデジタル教材の活用において、教員間でスキルに個人差があるという課題がある。教員への実践研修やヘルプデスクの設置など、サポート体制を継続して強化し、教員がICTを効果的に活用できる環境を整える必要がある。

<通番29 「地域とともにある学校づくり」>

学校運営協議会を通して、学校・家庭・地域が連携して子どもの実態を共有し、幅広い世代の委員が参加できるよう工夫することで、多角的な視点から学校運営に関わっていくことが重要である。

<通番30 「外部人材の活用」>

外部人材の活用を行う際に、参加する人と教師が一緒になって、どのような教育活動をする際に何を意識するのかという点について共通認識を図ることが大切である。そのことが社会に開かれた教育課程の実現につながる。(今回Cとなった原因としてなぜ、地域資源の活用ができなかったのか検討する必要がある。また、課題解決策の中で、)学びの機会を保障する点について、多様な方策を是非検討してほしい。

多くの学校で地域人材を活用した授業が行われているが、一部の学校では十分に進んでいない。より多くの社会人ボランティアや講師に協力してもらえよう、募集案内や周知を強化し、各学校の実態に合わせた地域資源の活用を促進すべきと考える。

基本目標	2	持続可能な教育施策推進のための環境整備	通番 23
基本施策	(6)	学びを支える環境の整備	
実現したい学びの姿	ICT活用のための備品の導入や設備改修、配慮が必要な子どもへの支援の充実が図られています。また、児童生徒が安全・安心に学ぶことができる教育環境の充実と、教職員にとって働きやすい環境づくりが進められています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
	指導内容に対応した教材、備品の配備	26,771,547	学校教育課 教育総務課
	事業の概要		
新しい時代の学校教育の指導内容に応じた学習用タブレット端末等の各種教材や教育用備品などの導入促進、適切な配備を行います。			

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	日常的に学校全体でICTを活用した授業を行っている学校の割合(全国学力・学習状況調査(学校質問紙))				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)90 (中)100 (令和元年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)90 (中)75	(小)100 (中)100	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校において、ICTを活用した授業を日常的に実施しました。 ・タブレット端末と大型モニターを接続し、教員だけでなく児童生徒も自ら作成した資料等を用いて発表や意見交換を行うなど、ICT機器の積極的な活用を推進しました。 ・全普通教室への大型モニターの設置により、写真や動画、デジタル教科書等の教材・資料を投影し、視覚的な支援を通して、全ての子どもたちにとって理解しやすい授業を行いました。 ・経年劣化が見られる一部の大型モニターについては、機器の更新を進めました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室内でタブレット端末と大型モニターを容易に連携できるよう必要な機器を整備したことで、授業におけるICTの積極的な活用につながりました。 ・全国学力・学習状況調査の学校質問紙において、「日常的に学校全体でICTを活用した授業を行っている」と回答した学校の割合が増加し、全ての小中学校でICTを活用した授業を実施しました。 ・タブレット端末での授業支援ソフトの活用により、児童生徒のニーズに応じた個別指導や、多様な学習活動の実現を推進しました。 ・指導者用デジタル教科書の配備により、大型モニター等を活用した分かりやすい授業づくりを行いました。 ・タブレット端末用アプリケーションの導入により、個々の児童生徒の学習状況や理解度に応じた、きめ細やかな学習支援ができました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・大型モニターの老朽化への対応が課題です。 ・タブレット端末やデジタル教材の活用にあたっては、教員間で個人差があるため、実践研修等による教員へのサポート体制が必要です。また、使用方法や操作、トラブルについて相談できる体制が必要です。

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	I: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・普通教室の老朽化した大型モニター等の表示装置を更新し、引き続きICTを活用した授業の実施に向けた教育環境を整備します。 ・研修や実践事例の共有、ヘルプデスク設置等によるサポートを通して、タブレット端末を効果的に活用した授業づくりを推進します。

基本目標	2	持続可能な教育施策推進のための環境整備	通番 24
基本施策	(6)	学びを支える環境の整備	
実現したい学びの姿		ICT活用のための備品の導入や設備改修、配慮が必要な子どもへの支援の充実が図られています。また、児童生徒が安全・安心に学ぶことができる教育環境の充実と、教職員にとって働きやすい環境づくりが進められています。	

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	就学や進学に対する支援体制の充実		68,995,470	学校教育課 教育総務課
	事業の概要			
経済的な理由により就学困難な子どもの保護者に対する学用品費等の必要経費の援助や高等学校等の進学が困難な家庭に対する奨学金に関する情報提供を行います。				

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	就学援助支援事業の実施				単位	—
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		目標	実施	実施	実施	実施	実施
	実施 (令和元年度)	実績	実施	実施	実施	実施	
内容							
<ul style="list-style-type: none"> ・長岡京市就学援助規則に基づき、経済的な理由で就学困難なご家庭に対して、学用品費等の援助を行いました。 ・次年度新たに就学する新小中学校1年生の保護者に対して、新入学学用品費の入学前支給を案内のうえ、対象者に支給しました。また、新入学学用品費(小学生分)の引き上げに伴い、対象者へ増額分の追加支給を行いました。 ・「市ホームページ」や「学校だより」への掲載、「入学説明会」で案内文書を配布することにより、就学援助制度についての情報提供を行いました。また、新小中学校1年生の保護者へ送付する「就学時健康診断の案内文書」に入学前支給に関する文書を同封し、周知をしました。 ・就学援助制度の主旨がより分かりやすく伝わるよう、新たにチラシを作成し、市ホームページへ掲載・配付しました。 ・申請時の保護者負担の軽減等を目的に、次年度事前受付分から、オンラインでの申請受付を開始しました。 ・家庭へのタブレット持ち帰り、Wi-Fi環境が整っていない家庭にモバイルルータの無償貸出を行いました。 ・京都府及び京都府教育委員会発行の「就・修学及び進学・就職を支援するための援護制度一覧」を用い、奨学金やその他援護制度に関する問い合わせがあった場合に、制度の案内をしました。 ・経済的に就学が困難な家庭からの相談に対しては、必要に応じて、生活保護をはじめとする各種支援制度についても関係部署と連携を図りながら案内をし、情報提供を行いました。 							

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活を送るために必要な学用品費等の援助や、モバイルルータの無償貸出しを行い、経済的に困りの家庭に対して負担軽減を行いました。 ・経済的な理由により高等学校への進学が困難な生徒を持つ保護者に対して、京都府及び京都府教育委員会発行の「就・修学及び進学・就職を支援するための援護制度一覧」を用い、奨学金等に関する情報を提供したことにより、経済的な支援の充実を図りました。
	課題等	就学援助制度や、進学に際して援護についての相談が保護者からあった場合は、引き続き、丁寧に聞き取りを行ったうえで対応をすることが必要です。

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	I: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、長岡京市就学援助規則に基づき審査のうえ、就学援助を実施します。また、モバイルルータの無償貸出しも引き続き行います。 ・生活保護をはじめとする各種支援制度についても、必要に応じて関係部署と連携を図りながら案内をし、情報提供を行います。

基本目標	2	持続可能な教育施策推進のための環境整備	通番 25
基本施策	(6)	学びを支える環境の整備	
実現したい学びの姿		ICT活用のための備品の導入や設備改修、配慮が必要な子どもへの支援の充実が図られています。また、児童生徒が安全・安心に学ぶことができる教育環境の充実と、教職員にとって働きやすい環境づくりが進められています。	

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	学校施設安全・快適整備		571,563,741	教育総務課
	事業の概要			
児童・生徒の安全・安心と快適な学校生活、充実した学習環境などの実現のため、施設整備を行います。外壁改修等の安全対策、空調整備、教室等照明LED化等の環境整備により学校施設の機能性能の向上を図ります。				

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	特別教室の空調設置率				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		目標	67.0	73.0	100.0	-	-
	63.8 (令和2年度)	実績	67.0	78.0	100.0	-	-
		目標指標	体育館・武道場の空調整備の進捗状況				単位
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		目標	/		整備方針検討	実施設計・整備	実施設計・整備
	-	実績	/		整備方針検討・策定	実施設計・整備	
		内容	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡第九小学校は、旧給食室を新図書室に改修する工事を行いました。 ・長岡中学校は、貯水槽改修工事を行いました。 ・神足小学校、長岡第六小学校及び長岡第七小学校体育館の照明LED化工事を行いました。 ・長岡中学校、長岡第二中学校、長岡第三中学校及び長岡第四中学校体育館・武道場の空調工事を行いました。 ・長法寺小学校、長岡第五小学校、長岡第八小学校及び長岡第九小学校体育館の空調工事実施設計を行いました。 				

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別教室の空調整備は、令和5年度に完了し、快適な学習環境を維持しています。 ・長岡第九小学校は、児童数増への対応等に係る改修工事が、旧給食室を新図書室に改修する工事をもって完了し、学習環境が向上しました。 ・小学校体育館の照明LED化工事に取り組み、環境負荷を低減することができました。 ・中学校4校の体育館・武道場に空調を設置し、熱中症対策や避難所の機能強化を図ることができました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動を行いながらの工事となるため、安全対策の徹底、施設の利用制限や騒音対策などについて学校と調整し、進めていく必要があります。 ・普通教室の空調設備の老朽化が進んでいるため、計画的な更新が必要となっています。 ・中学校の防球フェンスについて、高さ不足や老朽化などの課題があります。

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	I:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・学校施設の個別施設計画に基づき、計画的に施設・設備の長寿命化を図る工事等を実施します。 ・校舎の照明についてもLED化を進め、学校における設備の省エネ化・高効率化を図り、環境負荷の低減に取り組みます。

基本目標	2	持続可能な教育施策推進のための環境整備	通番 26
基本施策	(6)	学びを支える環境の整備	
実現したい学びの姿		ICT活用のための備品の導入や設備改修、配慮が必要な子どもへの支援の充実が図られています。また、児童生徒が安全・安心に学ぶことができる教育環境の充実と、教職員にとって働きやすい環境づくりが進められています。	

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	学校施設再整備事業		680,533,320	教育総務課
	事業の概要			
老朽化等の課題がある学校施設の建替えによる再整備を検討・実施します。				

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標①	長岡第四小学校再整備の進捗状況				単位	—
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	基本設計(令和2年度)	目標	実施設計	校舎工事	校舎工事	体育館等工事	外構工事、工事完了
		実績	実施設計	校舎工事	校舎工事	体育館等工事	
	目標指標②	長岡第三小学校再整備の進捗状況				単位	—
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
配置検討(令和2年度)	目標	配置検討	基本設計	基本設計	基本設計・実施設計	実施設計・工事	
	実績	配置検討	埋文調査(試掘) 耐力度調査	基本設計	基本設計・実施設計		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡第四小学校再整備は、旧校舎の解体後、令和7年6月の完成に向けて新体育館の建設工事を行いました。 ・長岡第三小学校再整備は、基本設計が完成し、引き続き実施設計に取り組みました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長岡第四小学校再整備は、当初予定していなかった空調整備を追加し、新体育館の建設を行っています。 ・長岡第三小学校再整備は、基本設計完成後も、地域団体や近隣住民への説明や意見交換を行い、実施設計を進めました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡第四小学校再整備は、新施設と旧施設が混在している状態のため、利用に支障をきたさないよう学校や地域との調整や、安全対策を徹底する必要があります。 ・長岡第三小学校再整備は、学校、地域団体、近隣住民の意見を調整する必要があります。

次年度以降の対応	
A (行動)	<p>方向性</p> <p>対応策等</p> <p>I:計画通りに進めることが適当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長岡第四小学校再整備は、令和8年3月の全工事完了に向けて、新体育館完成後、グラウンドや外構の整備について、学校や地域と調整しながら進めます。 ・長岡第三小学校再整備は、引き続き、学校、地域団体や近隣住民と調整を図りながら、実施設計に取り組みます。

基本目標	2	持続可能な教育施策推進のための環境整備	通番 27
基本施策	(6)	学びを支える環境の整備	
実現したい学びの姿		ICT活用のための備品の導入や設備改修、配慮が必要な子どもへの支援の充実が図られています。また、児童生徒が安全・安心に学ぶことができる教育環境の充実と、教職員にとって働きやすい環境づくりが進められています。	

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	持続可能な学校指導体制の環境整備		43,816,275	学校教育課
	事業の概要			
教員業務の見直しや在校時間の適切な把握、校務支援システムの活用等をより一層推進し、教職員の長時間労働の改善に取り組めます。また、外部の人材活用や学校業務時間外の自動音声応答メッセージシステムによる電話対応、スクールロイヤー制度の活用により、教員が教育活動に専念できる環境整備に努めます。				

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	1ヶ月の時間外勤務が80時間以上の教職員の割合				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		目標	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少
	17.2 (令和元年度)	実績	14.5	13.4	9.3	10.1	
内容		<ul style="list-style-type: none"> ・出退勤管理システムを活用し、教職員の勤務状況を把握することで、業務改善に役立てました。 ・教職員の心身の健康保持増進のため、健康診断やストレスチェックを実施しました。さらに、各校においては、管理職や衛生推進者が個々の状況に応じた助言を行うなど、勤務環境の改善に努めました。 ・会議や行事の精選、ICTを活用した資料のペーパーレス化・効率化、採点支援システムや保護者連絡システムの整備、留守番電話の活用促進、ノー部活動デーの設定、外部人材(学校教育支援員、図書館司書、教員業務支援員等)の積極的な配置・活用など、業務改善につながる環境整備に取り組めました。 					

「実現したい学びの姿」に対する評価			
令和6年度の達成状況			
C (評価)	達成度合	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・1ヶ月の時間外勤務が80時間以上の教職員の割合は前年度に比べ微増しました。 ・学校教育支援員等の外部人材を配置することにより、教職員の業務負担軽減を図りました。 ・健康診断やストレスチェックの実施を通して、教職員の心身の健康の維持・向上に努めました。 ・各校では、積極的に会議や行事の見直し等を行い、業務改善に取り組めました。 ・タブレット端末等のICT機器や校務支援システムの積極的な活用により、資料のペーパーレス化や業務の効率化を推進し、業務改善に努めました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間外における在校時間の縮減や負担軽減が課題となっています。 ・保護者への対応などの課題に対し、組織的に対応する学校体制や法務相談体制の更なる充実などが求められています。 	

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
I:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の実情を踏まえ、会議の精選やICTの活用によるペーパーレス化・効率化など、引き続き業務負担の軽減に努めます。 ・健康診断やストレスチェックの受診を促し、衛生推進者を中心に心身ともに健康な職場づくりを推進します。 ・学校を取り巻く課題解決のため、組織的な対応と法務相談体制の充実に取り組めます。

基本目標	2	持続可能な教育施策推進のための環境整備	通番 28
基本施策	(7)	よりよい学校づくりの推進	
実現したい学びの姿		地域人材の活用や研修等を通して教職員の専門性を高めるとともに、地域、保護者に対して開かれた学校を目指すことで、よりよい学校づくりが図られています。	

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	教職員研修事業		992,517	教育支援センター
	事業の概要			
学校教育におけるさまざまな課題の解決と新たな研究の推進をめざした、時代の流れに即した研修を行います。また、OJTによる研修やネットを活用した研修形態の導入の検討等、多様な研修機会の充実に努めます。				

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	研修の受講者評価(満足と回答した比率)				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	86.7 (令和元年度)	目標	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない
		実績	95.7	97.2	97.3	95.9	
内容	<p>大阪大学大学院との包括協定も活用しながら、教職員を対象に各種研修会を実施しました。</p> <p><保幼小連携に係る研修会> ※オンライン研修 講師:香川大学教育学部 松井 剛太 氏 日程:令和6年4月16日(火) 参加者:102名</p> <p><経験職務別研修会(初任者研修)> 講師:市職員他 日程:令和6年8月8日(木) 参加者:12名</p> <p><教育課題特別研修会> ※(1)(4)オンライン研修 (2)(3)集合研修</p> <p>(1)ICT・授業改善 講師:東京学芸大学 高橋 純 氏 日程:令和6年6月27日(木) 参加者:102名</p> <p>(2)特別支援教育 講師:桃山学院教育大学 松久 眞実 氏 日程:令和6年7月30日(火) 参加者:125名</p> <p>(3)不登校 講師:大阪大学大学院 片山 泰一 氏 日程:令和6年7月31日(水) 参加者:122名</p> <p>(4)生徒指導 講師:関西外国語大学 新井 肇 氏 日程:令和6年8月19日(月) 参加者:74名</p> <p><特別テーマ研修会(教科担任制)> ※集合研修 講師:明海大学 鈿持 勉 氏 日程:令和6年11月22日(金) 参加者:34名</p>						

「実現したい学びの姿」に対する評価			
令和6年度の達成状況			
C (評価)	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・保幼小連携に係る研修会では、就学前機関、小学校、行政機関、各部門から積極的な参加があり、「保幼小連携」の在り方や子どもの見方について学びを深めることができました。 ・経験職務別研修会(初任者研修)では、埋蔵文化財センターを視察し、長岡京市の魅力を児童生徒に分かりやすく伝えるために、本市の歴史や文化等についての理解を深めることができました。 ・教育課題特別研修会では、今日的課題のテーマを精選して開講したことにより、教職員がニーズに応じて参加したいテーマを選択することができました。また、オンライン研修も取り入れることで、本研修を校内研修と位置付けて受講した学校もあり、多くの教職員の参加がありました。 ・特別テーマ研修会では、特に、小学校高学年の教科担任制に焦点を当てた研修とし、実際に取り入れる際の課題やメリット等について、他の自治体の例も交えて学ぶよい機会となりました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の現状や今後必要な視点等を踏まえた教育の今日的課題に関する研修や、教職員のニーズに合致した身近なテーマの研修など、研修内容をより精選して実施していく必要があります。 ・早期に日程を調整し、教職員が参加しやすい日時で調整を進める必要があります。 	

次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> <tr> <td>I:計画通りに進めることが適当</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も、多くの人数で受講できるオンライン研修と対面形式の集合研修と組み合わせて実施します。また、研修内容については、府の研修等と重複しないよう調整します。 ・引き続き、早い段階で校長会等で研修日程を周知することにより、校内研修に位置付ける等、積極的な参加を促します。 </td> </tr> </table>	方向性	対応策等	I:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も、多くの人数で受講できるオンライン研修と対面形式の集合研修と組み合わせて実施します。また、研修内容については、府の研修等と重複しないよう調整します。 ・引き続き、早い段階で校長会等で研修日程を周知することにより、校内研修に位置付ける等、積極的な参加を促します。
方向性	対応策等				
I:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も、多くの人数で受講できるオンライン研修と対面形式の集合研修と組み合わせて実施します。また、研修内容については、府の研修等と重複しないよう調整します。 ・引き続き、早い段階で校長会等で研修日程を周知することにより、校内研修に位置付ける等、積極的な参加を促します。 				

基本目標	2	持続可能な教育施策推進のための環境整備	通番 29
基本施策	(7)	よりよい学校づくりの推進	
実現したい学びの姿		地域人材の活用や研修等を通して教職員の専門性を高めるとともに、地域、保護者に対して開かれた学校を目指すことで、よりよい学校づくりが図られています。	

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
	地域とともにある学校づくり	210,000	学校教育課
	事業の概要		
学校評議員制度の活用と学校評価の実施、学校だよりやホームページ等を活用した積極的な情報配信による地域に開かれた学校づくりに努めます。			

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	地域関係者を評議員に入れている学校の割合				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)100 (中)100 (令和元年度)	目標	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100
		実績	(小)100 (中)100				
	目標指標	学校運営協議会を設置している学校の割合				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)100 (中)100 (令和4年度)	目標		(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100
		実績		(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	(小)100 (中)100	
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度から市立小中学校14校全てに学校運営協議会制度を導入し、令和6年度においても継続しました。 ・地域住民や保護者、学校長を学校運営協議会委員とした学校運営協議会では、各校、年数回の協議会を開催し、学校の課題や取り組みについて情報共有し、意見を出し合いました。 ・各校、学校の様子を周知するため、取組等をホームページへ随時掲載したり、学校だよりを定期的に発行しています。 					

「実現したい学びの姿」に対する評価			
令和6年度の達成状況			
C (評価)	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度までに引き続き、全ての小中学校で、地域関係者を学校運営協議会委員として委嘱しました。 ・学校運営協議会を設置し、地域関係者の委員と協議したことにより、学校運営や支援について多角的な判断ができました。 ・学校の取組を、ホームページや学校だよりへ掲載する等の情報発信を行うことにより、地域に開かれた学校づくりを推進することができました。
	課題等		<ul style="list-style-type: none"> ・各校の実情に合わせて検討・協議を行うため、引き続き地域関係者に学校運営協議会委員として参画していただく必要があります。 ・委員として委嘱される方々の世代が、より幅広くなるよう工夫する必要があります。

次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> <tr> <td>1:計画通りに進めることが適当</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も学校運営協議会制度を活用し、学校と地域関係者が協力し合い、学校運営に取り組みます。 ・引き続き、各校での取組をホームページや学校だよりに掲載することにより、情報発信を続けます。 </td> </tr> </table>	方向性	対応策等	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も学校運営協議会制度を活用し、学校と地域関係者が協力し合い、学校運営に取り組みます。 ・引き続き、各校での取組をホームページや学校だよりに掲載することにより、情報発信を続けます。
方向性	対応策等				
1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も学校運営協議会制度を活用し、学校と地域関係者が協力し合い、学校運営に取り組みます。 ・引き続き、各校での取組をホームページや学校だよりに掲載することにより、情報発信を続けます。 				

基本目標	2	持続可能な教育施策推進のための環境整備	通番 30
基本施策	(7)	よりよい学校づくりの推進	
実現したい学びの姿		地域人材の活用や研修等を通して教職員の専門性を高めるとともに、地域、保護者に対して開かれた学校を目指すことで、よりよい学校づくりが図られています。	

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	外部人材の活用		-	学校教育課
	事業の概要			
学校外の人材による授業や部活動の支援、大学など外部の専門家からの助言による授業改善などにより、教育の質の向上を図ります。				

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	教育活動に必要な地域などの資源を活用している学校の割合(全国学力・学習状況調査(学校質問紙))				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	(小)100.0 (中)100.0 (令和元年度)	目標	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない
		実績	(小)100.0 (中)100.0	(小)80.0 (中)100.0	(小)100.0 (中)100.0	(小)90.0 (中)75.0	
<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域をはじめ、様々な分野で活躍されている学校外の方から、タケノコ掘りや田植えの指導、図書館の本の貸出し支援、ボランティアによる読み聞かせ等の支援を受けました。 ・外部講師による非行防止教室や薬物乱用防止教室、交通安全教室、地元によりのある方や企業等による出前授業を開催しました。 ・大学教授を招いて、「総合的な学習の時間」についての研修を実施したり、校内重点研究に合わせた授業改善等に係る研究に取り組んだり、各校が自校の取組に合わせて、外部講師を招いた教職員研修を実施しました。 ・その他、京都府総合教育センターの教職員向け研修や授業実践力向上に係る講座等を受講しました。 							

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの小中学校で、地域の方々の支援による授業を実施しましたが、一部の学校で地域資源の活用が十分に進まず、目標を達成することができませんでした。 ・大学など外部の専門家や、様々な分野で活躍する人材による研修や指導を通じて、児童生徒だけでなく、教職員も学びを深めることができました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの社会人ボランティア、社会人講師の方々に協力していただけるよう、募集案内・周知するとともに、地域資源の活用を含め、各校の実態に合わせた活用を図っていくことが必要です。

次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	<p>I:計画通りに進めることが適当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、外部の専門家等の支援を受け、教職員の専門性を高め、教育の質の向上を図ります。また、地域人材を活用することで、地域に開かれた学校づくりを推進します。 ・今後も対面、オンラインを問わず、児童生徒に多様な学びの機会を確保し、深い学びに繋がるよう取組を進めていきます。

基本目標3

生涯を通じた、多様な学びによる
豊かな人づくり、地域づくり

基本施策(8) 生涯を通じた多様な学びの充実と人権教育の推進
(通番31~36)

基本施策(9) 文化・スポーツの振興と文化財の保存活用 (通番37~42)

基本目標3

学識経験者の主な意見

<通番31「公民館市民講座開設事業」、通番32「中央生涯学習センター事業」、通番33「社会教育推進事業」、通番34「各種団体サークル等活動支援事業」>

市民の様々なニーズへの対応や学べる環境の提供は、生涯学習社会の実現の取り組みとして意義深い。今後も継続して取り組むことで、市民1人1人が充実した学びを受けることができる。一方で、講座数の増加による場所の確保等も課題もあり、企画あたりの講座数に上限を設けるなど、サークル活動とのバランスを調整し、質の高い講座を維持するために新たな展開を考える必要がある。どのような視点で教育活動を行っているのかという点を意識しながら検討をしてほしい。

公民館サークルの登録件数減少が見込まれており、文化活動団体では会員の高齢化と減少が顕著に現れている。様々な世代が文化・芸術に触れ、参加できるように、見学会や体験会を継続して実施し、SNSやウェブサイトを通じて積極的に情報提供を行うべきだと考える。

<通番35「図書館サービスの推進・充実事業」>

本への関心が持てるような充実した図書館サービスが提供されている。新鮮な情報が得られる書架も大切であるが、一方で、古典と呼ばれる本の中から学ぶこともあるので、古い本の「適切な廃棄」の「適切さ」をしっかりと検討してほしい。

図書館の利用者を増やすため、若年層を含む多様な世代のニーズに応じたイベントや情報発信を継続的に行う必要がある。また、老朽化した機器・設備の更新や、誰もが快適に利用できるユニバーサルデザインへの配慮も重要である。

<通番36「人権教育・啓発推進事業」>

人権について考えることは非常に重要なことであり、継続して実施し続けることが重要である。人権啓発事業を通して問題を認識し、その問題について真剣に取り組むことができる。人権に関する課題については共通して人を大切にする、1人1人が人権感覚を持つという点が基本となる。多くの市民が意識できるようなきっかけを提供することを検討してほしい。

<通番37「長岡京芸術劇場推進事業」、通番38「文化活動推進・支援事業」>

市民が文化に触れる機会を提供することは非常に重要なことである。来場者や参加者の増加、特に若年層の参加促進が課題と考える。芸術・文化団体と連携し、より魅力的で幅広い世代が楽しめる事業を企画するとともに、効果的なPR活動を強化し、市民が文化に触れる機会への工夫をこれからも実施してほしい。

<通番39「総合型地域スポーツクラブ推進事業」、通番40「スポーツ交流推進事業」、通番41「スポーツ施設環境の整備」>

市民がスポーツに触れる機会が提供されることは継続して行ってほしい。その際に、安全・安心の場の提供は大前提となるので、しっかりと検討してほしい。総合型地域スポーツクラブや市民大運動会、市民スポーツフェスティバルなどのイベントでは、運営の担い手不足と高齢化が課題となっている。負担軽減のための支援や、新たな担い手を確保するための活動を各校区と協議し、必要な支援を行うべきと考える。

<通番42「総合的な文化保存活用の推進」>

長岡京市に豊富に存在する文化財は、地域の歴史やアイデンティティを伝える上で貴重な資源である。その価値を市民に啓発し、保存・活用していくための体制を強化する必要がある。歴史資料の展示は、文化財保存の観点からも、子どもや市民が自身の町の歴史に触れることでふるさとを知るということにつながる点でも重要である。

新庁舎に開設される歴史資料展示室を核として、市全体の歴史・文化を網羅する「まちなか博物館ネットワーク」を構築し、市民の歴史・文化への関心を高める事業を推進すべきと考える。歴史資料展示室の運営には専門的な人材の確保と調査研究体制の整備が必要であり、これには既存の職員の専門性を高める研修機会の提供や、外部専門家との連携を深めることが含まれる。また、乙訓古墳群などの史跡保護のため、購入が可能な史跡を計画的に公有化していくことが重要である。

基本目標	3	生涯を通じた、多様な学びによる豊かな人づくり、地域づくり	通番 31
基本施策	(8)	生涯を通じた多様な学びの充実と人権教育の推進	
実現したい学びの姿		社会教育施設や講座等が充実され、主体的に学ぶ市民が増えています。また、市民に多様性への理解や人権を尊重する意識が育っています。	

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	公民館市民講座開設事業		1,171,319	中央公民館
	事業の概要			
市民生活が生涯学習を通じて潤いあるものとなるように、様々な学習ニーズに対応した講座を実施します。また、实际生活に関する学習課題を市民自らが講師となり共に解決していく「市民企画講座」を実施します。				

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	公民館主催講座の参加者数(児童室一般開放を除く)				単位	人
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		6,013 (令和元年度)	目標	6,130	6,190	6,250	6,310
	内 容	実績	3,877	5,099	5,119	4,956	
<ul style="list-style-type: none"> ・各世代のニーズに応じた講座として、青少年教育(少年少女発明クラブ12回)、男女共同参画(男女共同参画講座1回)、高齢者教育(熟年生き生き講座12回)、家庭教育(びよびよクラブ10回、子育てふれあいルーム68回、多文化共生子育て講座1回)、福祉教育(聴覚言語障がい者学級1回)を実施しました。また、公民館での子育て事業や各種講座への託児に従事していただく子育てボランティアを養成する講座5回、子育てボランティア同士の情報共有の場としてサポーターふれあいネット12回を実施しました。 ・平成29年度に試行、平成30年度から本格的に実施した市民企画講座は、総合計画から抽出した6つのテーマに沿って市民自らが講師となり、54企画、105講座を実施しました。3年度に引き続き、個別の講座チラシに加えて、3ヶ月単位で取りまとめたチラシを作成し、さらにロビーに設置しているデジタルサイネージにチラシを表示し、来館者に実施時期や内容が一目でわかるよう工夫しました。 							

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民企画講座では、講座終了後にアンケート調査を実施し、集約結果を講師と共有することで、参加者ニーズの把握と次回への取り組み課題への反映につなげており、参加者の満足度は80%~100%となっています。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度の本格実施から6年が経過し、市民に市民企画講座が認知されてきた一方、講座数が増えたことに伴いサークル活動のために使える部屋が少なくなってしまうため、サークル活動を抑制せず、市民企画講座を実施することが課題です。

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・1企画あたりの講座数に上限を設けるなど、サークル活動の充実とのバランスを調整します。 ・多岐にわたる企画について、公民館事業として適した内容であるか審査基準を設けるなど、企画の精査を行います。 ・アンケート結果をもとに市民ニーズの把握に努め、企画者とともにより良い講座となるよう引き続き実施していきます。

基本目標	3	生涯を通じた、多様な学びによる豊かな人づくり、地域づくり	通番 32
基本施策	(8)	生涯を通じた多様な学びの充実と人権教育の推進	
実現したい学びの姿		社会教育施設や講座等が充実され、主体的に学ぶ市民が増えています。また、市民に多様性への理解や人権を尊重する意識が育っています。	

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	中央生涯学習センター事業		72,742,760円	生涯学習課
	事業の概要			
人生100年時代を迎え、生涯学習社会への重要性が高まっています。市民の主体的な学びの場として、また、学習機会や情報を提供する場として、中央生涯学習センターを管理運営します。				

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	中央生涯学習センター貸室利用率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		48.7 (令和元年度)	目標	30.0	50.0	50.0	50.0
	内容	実績	30.1	40.9	43.6	46.2	
<ul style="list-style-type: none"> ・中央生涯学習センターの管理運営は、指定管理者である大阪ガスビジネスクリエイト株式会社に委任しています。 ・指定管理者の自主事業として、バンビオ展示ウィーク、バンビオファミリー人形劇、夏休み親子企画、各種講座などを行いました。また、「ウインターマルシェinバンビオ」と「おとくにておんがくでつながろうプロジェクト」を初開催し、出展者(バンビオ利用団体)と市民の相互交流を促進しました。 ・生涯学習機関紙「be→!」や「バンビオここから通信」を全戸配布し、イベントの告知や施設利用サークルの紹介などの情報発信を行いました。 							

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度) ・主に、時間貸し(リハーサルスタジオ、学習室)の利用が増え、貸室を利用した人数は、前年度を上回りました。 ・空調設備の修繕や各貸室の照明をLED化したことで、より快適な利用環境を整えることができました。 ・指定管理者の自主事業として講座やイベントを積極的に行い、事業への参加を通じて、多くの人に新たな学びの機会を提供しました。
	課題等	・利用者に安全かつ快適に施設を利用いただくために、施設設備や備品の計画的な修繕や更新を行う必要があります。

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、魅力的な講座やイベントを実施し、生涯学習、施設利用のきっかけづくりとなる取り組みを行います。 ・計画的に、施設設備や備品の修繕・更新を行います。

基本目標	3	生涯を通じた、多様な学びによる豊かな人づくり、地域づくり	通番 33
基本施策	(8)	生涯を通じた多様な学びの充実と人権教育の推進	
実現したい学びの姿		社会教育施設や講座等が充実され、主体的に学ぶ市民が増えています。また、市民に多様性への理解や人権を尊重する意識が育っています。	

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	社会教育推進事業		956,960	生涯学習課
	事業の概要			
団体の持続的な活動が推進できるように、社会教育関係団体を支援していきます。				

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	社会教育活動支援団体数(補助金交付団体数)				単位	団体
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	13(令和元年度)	目標	13	13	13	13	13
		実績	12	11	11	11	
内容	<ul style="list-style-type: none"> 市内の社会教育団体、スポーツ団体、文化団体に対し、収支予算、決算や事業計画、報告に基づき補助金を交付しました。 時代に合わせた事業実施方法の見直しを含め、団体からの様々な相談に対応し、必要に応じて共に調整を行うなど、幅広い分野の地域に根差した社会教育活動に対し、活動費以外の面でも支援しました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価			
令和6年度の達成状況			
C (評価)	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	<ul style="list-style-type: none"> 申請された社会教育関係団体に対し補助金を交付し、活動費の面で支援することができました。13団体のうち1団体は支援方法を補助金交付による支援から、団体提案事業を共催する支援へ変更し、もう1団体はR3年度末で活動終了されたため、目標値より2団体減となっています。 活動費以外でも、より効果的な支援に向け、地域活動に関連する部署で情報共有を行ったほか、校区どうしの情報共有、交換の機会として会議を開催したり、時代に合わせた参加しやすい事業実施方法への見直しについて、助言、調整を行うなど様々な支援を行いました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 退職後も働く方が増えたり、一人親世帯、共働き世帯が増えるなか、地域に根差した社会教育活動に対しどのように、多くの方に参加いただくかが課題です。 社会教育団体の活動と、地域コミュニティ全体の活動が密接に関係しており、地域全体として円滑に活動していただけるような連携や支援が必要です。 	

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
方向性	I:計画通りに進めることが適当
	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き活動費の支援を行います。 団体の参加者が増えるよう、参加しやすいかたちへの事業見直しについて助言や必要な調整をしたり、校区間で情報共有、交換の場を設けるなど、活動費以外の面での支援も行います。 地域コミュニティ活動の担当部署をはじめ地域活動に関連する部署と情報共有し、地域活動全体に対する支援となるよう連携を進めます。

基本目標	3	生涯を通じた、多様な学びによる豊かな人づくり、地域づくり	通番 34
基本施策	(8)	生涯を通じた多様な学びの充実と人権教育の推進	
実現したい学びの姿	社会教育施設や講座等が充実され、主体的に学ぶ市民が増えています。また、市民に多様性への理解や人権を尊重する意識が育っています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
		各種団体サークル等活動支援事業	346,500
	事業の概要		
	公民館で活動しているサークルの活動紹介等を通じて、公民館に来館し、活動する市民を増やします。館内の発表会・パネル展示・広報紙に加え、中・高・大学生、壮年等の世代別の広報も展開し、新たな市民利用を呼び込みます。		

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標①	公民館(社会教育ホール)登録団体件数				単位	団体
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	166 (令和2年8月 末現在)	目標	170	175	180	185	190
		実績	182	190	155	168	
	目標指標②	公民館(社会教育ホール)登録団体による利用件数【児童室・焼成炉室除く】				単位	件
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	2,869 (令和元年度)	目標	2,900	2,930	2,960	2,990	3,020
		実績	1,921	2,678	2,802	2,672	
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館サークル連絡協議会(略称:公サ連)の会員が中心となり、市民ギャラリーの作品展示や館内での募集看板の掲示及びガラシャ祭り時の体験会であるオープンハウスを利用したサークル加入のための広報活動を実施しました。 ・ロビーに設置しているデジタルサイネージの活用策として、公サ連加入サークルの紹介記事を表示して来館者の目に触れるようにすることで、市民への広報と公サ連加入へのメリットを生み、加入促進の取組を実施しました。 					

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度) 達成状況 ・エレベーター更新工事に伴う貸館休止期間(8/20~23、8/27~30)があったため、利用件数が微減となりました。
	課題等	・団体登録件数の減少が見込まれるため、更なるサークル会員の確保に向けた取り組みが必要です。

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
方向性 I:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・見学や体験の機会となるオープンハウスを引き続き実施するほか、普段の活動時でも気軽に見学できるよう、活動日に「見学歓迎」等の掲示を行い、会員確保につなげていきます。その他、デジタルサイネージに動画を表示するなど更なる活用を進めるとともに、市ホームページの見せ方の工夫により、公サ連への加入やサークル活動に結びつくような情報提供に取り組めます。

基本目標	3	生涯を通じた、多様な学びによる豊かな人づくり、地域づくり	通番 35
基本施策	(8)	生涯を通じた多様な学びの充実と人権教育の推進	
実現したい学びの姿		社会教育施設や講座等が充実され、主体的に学ぶ市民が増えています。また、市民に多様性への理解や人権を尊重する意識が育っています。	

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	図書館サービスの推進・充実事業		12,339,681円	図書館
	事業の概要			
読書啓発活動を推進するとともに、今まで図書館を利用していない人にも魅力を感じてもらえるアプローチの手法を検討・実施します。				

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	1冊あたりの年間稼働率(回転数)				単位	回
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	1.58 (令和元年度)	目標	1.70	1.70	1.70	1.70	1.70
		実績	1.72	1.70	1.70	1.69	
内容	<p>読書啓発のため、様々なイベントを実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児向け「えほんのひろば」では新たに英語絵本の読み聞かせを開始し、また「絵本で楽しむ英語のいっば」をステップアップさせた「英語のにはほ」を実施するなど、幅広い世代が楽しく多言語に触れる機会を創出しました。 ・図書館利用の少ない10代を対象に、市内企業の方を講師に招き、「お仕事図鑑」と題した講演やワークショップを実施しました。13名が参加し、「将来を考える機会になった」「人との繋がりの大切さを知った」といった声が寄せられ、自己実現に向けた学びの場を提供することができました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価			
令和6年度の達成状況			
C (評価)	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	<p>図書館資料の回転数向上のため、各世代に応じたイベント開催と情報発信に注力し、図書館資料の利用促進を図りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせや工作、読書講演会など、乳幼児向け90回、小学生向け30回、中高生~大人向け38回の読書推進イベントを実施し、幅広い世代に本との出会いを提供しました。 ・市公式LINE「図書館つーしん」を月2回配信し、図書館情報を積極的に発信した結果、年間イベント参加者数は延べ2,578名(前年度比364名増)となりました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットやスマートフォンの普及による読書離れが懸念される中、積極的に読書の楽しさや図書館の魅力を伝えていく必要があります。 ・老朽化した機器・設備の更新や、誰もが快適に利用できるユニバーサルデザインへの配慮、変化する市民ニーズへの対応など、図書館環境の整備が課題です。 	

次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	<p>I:計画通りに進めることが適当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民のニーズを踏まえ、幅広い分野の図書を収集するとともに、古い資料の適切な廃棄を進め、蔵書の充実を図ります。 ・各世代に応じた読書推進イベント開催と情報発信を引き続き積極的に実施します。 ・図書館の再整備に向け、関係部署と連携し、現状の課題整理と今後の整備内容について検討を進めます。

基本目標	3	生涯を通じた、多様な学びによる豊かな人づくり、地域づくり	通番 36
基本施策	(8)	生涯を通じた多様な学びの充実と人権教育の推進	
実現したい学びの姿		社会教育施設や講座等が充実され、主体的に学ぶ市民が増えています。また、市民に多様性への理解や人権を尊重する意識が育っています。	

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	人権教育・啓発推進事業		1,846,037	生涯学習課 (共生社会推進課)
	事業の概要			
全ての市民の人権が尊重され、個性と能力を発揮することができる社会を目指し、人権学習会や研修会を行います。				

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	人権啓発事業への参加者数				単位	人
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		目標	5,700	5,950	6,200	6,200	6,200
	6,152 (令和元年度)	実績	4,916	5,496	5,427	5,654	
内容		<ul style="list-style-type: none"> ・12月7日(土)に「人権・男女共同参画フォーラム」と「障がい者児の人権を考える市民のひろば」を合同で開催し、関係団体の発表、パネル展示、伊藤 真波さんの講演会などを行いました。 ・全ての市民の人権が尊重され、個性と能力を発揮することができる社会を目指して、人権啓発作品(標語・ポスター・写真)を募集しました。 ・市民団体である人権啓発推進協議会と連携し、様々な人権に関する公開講座を4回開催しました。 ・6月「男女共同参画週間」や11月「パープル&オレンジリボンプロジェクト」に合わせ、男女共同参画の推進と女性への暴力防止、児童虐待防止の啓発を行いました。 					

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月7日の合同開催は、体験コーナーやスタンプラリー・講演会の実施と盛りだくさんの事業内容とすることで、来場者の関心を高めることができました。今年度は、昨年に比較し、1.4倍の参加者となり、アンケート結果からも約7割の方が2回目以上の参加であり、イベントの魅力が高まっていることが分かります。 ・人権啓発推進協議会をはじめ、各種人権団体と協働することで、多様なテーマの人権課題について広く市民に学べる機会を提供し、昨年度より200名以上の参加者の増加となりました。 ・人権啓発作品は、4,443点の応募があり、受賞作品の展示を実施した市民集会は、参加型のイベントにすることで多くの親子連れが来場し、参加者が1.4倍となりました。 ・ニーズに即した多角的な事業を行うことで、男女共同参画意識の向上を図りました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・未だ、同和問題や、女性、子ども、高齢者、障がいのある人、外国人に対する差別等の様々な人権問題が存在しています。 ・近年は、SNSなどのインターネット、LGBT等に関連した人権侵害など、新たな人権問題も発生しています。

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	I:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・多様化・複雑化する社会の中での人権問題について、一人ひとりが自分の問題として認識し、正しい知識を身に付けるため、講演会やワークショップを通して学ぶ機会を提供します。 ・参加者を増やすため、テーマや開催方法・開催時期などを工夫します。 ・市民団体や学校、関係機関と協力、連携しながら、人権啓発事業を実施します。

基本目標	3	生涯を通じた、多様な学びによる豊かな人づくり、地域づくり	通番 37
基本施策	(9)	文化・スポーツの振興と文化財の保存活用	
実現したい学びの姿	市民が親しめる文化・芸術イベントやスポーツ大会の支援や運動・スポーツができる場所の提供により、文化・スポーツに関わる市民が増えています。また、文化財の魅力や価値についての市民への啓発が図られています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
		長岡京芸術劇場推進事業		77,643,907
	事業の概要			
	「長岡京芸術劇場」公演をはじめとした文化・芸術事業を推進します。また、子どもたちが文化・芸術に興味関心を持ち、活躍するまちづくりに取り組みます。また、長岡京記念文化会館を拠点とした質の高い舞台芸術の提供と充実を図るとともに、記念文化会館の安定的な運営を目指し京都府(施設設置者)に対して会館の活用や維持・改修を求めています。			

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	長岡京芸術劇場の事業数				単位	事業
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	21 (令和元年度)	目標	15	24	25	26	27
		実績	12	18	22	22	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・5月4日に「長岡京芸術劇場 長岡京駅前広場コンサート」を開催しました。市内の中学・高等学校の吹奏楽部や一般の団体など10団体が参加し、多くの市民にご来場いただきました。 ・長岡京芸術劇場事業として、長岡京芸術劇場実行委員会主催事業(6事業)、文化奨励事業補助金助成事業(6事業)、芸術劇場ロゴマーク使用申請イベント(9事業)を企画し、21事業を実施しました。 ・長岡京芸術劇場実行委員会主催事業出演団体3団体による、付帯事業として、市内の小中学校への出張演奏会(2団体)や、市内中学生にコンサートへの無料招待と交流会(1団体)を実施いただくなど、児童生徒との交流を図っていただきました。 ・長岡京記念文化事業団に対し支援を行い、長岡京記念文化会館で音楽、映画、人形劇等の15事業を実施しました。なお、課題として、長岡京記念文化会館の老朽化が深刻化しておりますが、京都府(施設設置者)に施設設備の維持・改修を求め、計画的に改修をいただいています。令和6年度は、舞台諸幕取替改修や自動火災報知設備改修を行っていただきました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールデンウィークに開催した「長岡京芸術劇場 長岡京駅前広場コンサート」や、長岡京記念文化会館にて開催した「長岡京芸術劇場主催事業」6事業をはじめ、長岡京芸術劇場事業として、合計22事業を実施することができました。目標事業数の達成には至りませんでした。入場者数はコロナ禍前に戻ってきています。 ・音楽を「聴く」「観る」「楽しむ」ことをコンセプトとして、市民文化芸術の育成や発表の機会の重要性を再認識しながら文化の継続と発展をテーマとした公演を実施しました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・「長岡京芸術劇場事業」の来場者増加のため、長岡京記念文化事業団と連携を図りながら、文化・芸術公演の更なるPRが必要です。 ・各文化芸術団体と調整・協議を重ね、連携協力しながら、事業の活発な実施のため、更なる工夫・支援が必要です。

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
I:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡京芸術劇場実行委員会が主催する「長岡京芸術劇場」公演の更なるPRを図り、市内及び市外からも入場者を募ります。 ・文化芸術団体と調整・協議を行い、連携協力しながら、事業を活発に実施できるよう検討・工夫及び支援を行っていきます。 ・ポスターやチラシの配架に加え、FMおとくになどを活用し、更なるPRを実施していきます。

基本目標	3	生涯を通じた、多様な学びによる豊かな人づくり、地域づくり	通番 38
基本施策	(9)	文化・スポーツの振興と文化財の保存活用	
実現したい学びの姿	市民が親しめる文化・芸術イベントやスポーツ大会の支援や運動・スポーツができる場所の提供により、文化・スポーツに関わる市民が増えています。また、文化財の魅力や価値についての市民への啓発が図られています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
		文化活動推進・支援事業		2,940,000
	事業の概要			
	誰もが文化・芸術活動に触れ、参加してもらう機会を確保するため、文化団体の文化・芸術活動を推進し、活動支援を行います。			

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	文化活動団体事業における参加者数(出品者、出演者、鑑賞者)				単位	人
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	7,092 (令和元年度)	目標	6,000	10,800	10,900	11,000	11,100
		実績	3,876	7,854	8,058	7,193	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡京市文化協会が主催する事業に補助金を交付し、市民の文化芸術の発表の場であり鑑賞の場でもある「名月の宴」「市民文化まつり」「長岡京展」等の実施について支援を行いました。また「文化講座」として「いけばなに触れる 花と日本人の文化&おもてなし」や「各種市民文化教室」の開催を支援し、初心者を対象にした文化芸術活動へのきっかけづくりを行いました。 ・「長岡京市文化奨励事業補助金」制度(募集期間:4月と10月)を運用し、文化芸術に触れる機会を提供する実施団体の自主的な文化・芸術活動に対し支援を行いました。 ・会員数維持のため「文化・芸術サークル見学会」を実施しました。 ・様々な世代に文化に触れていただくため、「夏休み牛乳パックでランタン作り」や「絵本を読んで絵を描こう」という絵画教室など、子どもたちやファミリー向けの事業を実施しました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<ul style="list-style-type: none"> ・文化協会3大事業(「名月の宴」「市民文化まつり」「長岡京展」)を実施しました。 ・来場者数は目標値を達成できませんでしたが、徐々に事業が平常に開催されたことにより年度によって増減はあるものの回復傾向です。 ・「名月の宴」では、7月31日に実施した「夏休み企画牛乳パックでランタン作り」に参加された小学生と家族計46名が作成したランタンを展示したことにより、若い世代(子どもや子育て世代)に来場いただくことができました。 ・長岡京市文化奨励事業補助金の交付件数は、募集期間を4月だけでなく10月にも追加募集を行いました。結果は、前年度より1件減の6件となりましたが、支援の機会を増やすことはできました。 ・文化協会新規会員獲得につなげるため、各サークルと協力し、昨年度に引き続き、5月26日に「文化・芸術サークル見学会」を開催し、参加者へ各サークルの活動内容を広く知らしめることができました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・文化協会会員数は、年々減少傾向で、とくにコロナ禍後は顕著です。今後とも、会員、各団体・サークル等と協力連携し、新規会員獲得、会員数維持への更なる努力が必要です。 ・文化芸術活動に携わる人が、高齢化・固定化しており、担い手の不足が深刻な状況です。

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
I:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術関連団体と連携協力を行うとともに、実施団体の支援や事業PR等に取り組んでいきます。 ・文化協会の人材を活用するなどして、文化芸術活動への参加のきっかけとなるような市民文化教室や文化講座の開催などを支援していきます。 ・文化協会新規会員獲得への更なる努力が必要です。今後、スポーツ分野や福祉分野とも連携しながら、事業の活性化等にも取り組んでいきます。

基本目標	3	生涯を通じた、多様な学びによる豊かな人づくり、地域づくり	通番 39
基本施策	(9)	文化・スポーツの振興と文化財の保存活用	
実現したい学びの姿	市民が親しめる文化・芸術イベントやスポーツ大会の支援や運動・スポーツができる場所の提供により、文化・スポーツに関わる市民が増えています。また、文化財の魅力や価値についての市民への啓発が図られています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	総合型地域スポーツクラブ推進事業		12,670,211	文化・スポーツ振興課
	事業の概要			
全小学校区で総合型地域スポーツクラブの設立を図ります。				

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	総合型地域スポーツクラブの設立数				単位	小学校区
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	8 (令和元年度)	目標	8	8	9	9	10
		実績	8	8	8	8	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・8つの小学校区で設立されている総合型地域スポーツクラブへの支援を行いました。特にスポーツフェスティバルについては、8校区全ての総合型地域スポーツクラブで実施しました。 ・総合型地域スポーツクラブ未設立の校区においては、地域スポーツ振興事業の委託などによる支援を行うとともに、クラブ創設に向けた働きかけをおこないました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在8つの校区で設立された総合型地域スポーツクラブを中心に、イベントや教室を開催し、校区住民の運動・スポーツの機会を提供することができました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・総合型地域スポーツクラブの運営やイベント開催時の担い手の人数不足や高齢化が課題です。 ・未設立校区では、総合型設立に向けた、組織の設立や実施意欲を高めるための活動が必要です。

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・地域スポーツが地域の絆や地域コミュニティの醸成につながるよう、関係団体と調整・協議を行い、事業が実施できるよう検討・工夫を行っていきます。 ・未設立校区では総合型設立に向けて、引き続き、長岡京市スポーツ協会と連携協力しながら「核となる団体」に対し、総合型地域スポーツクラブの意義について説明や、その必要性について理解を求めています。

基本目標	3	生涯を通じた、多様な学びによる豊かな人づくり、地域づくり	通番 40
基本施策	(9)	文化・スポーツの振興と文化財の保存活用	
実現したい学びの姿	市民が親しめる文化・芸術イベントやスポーツ大会の支援や運動・スポーツができる場所の提供により、文化・スポーツに関わる市民が増えています。また、文化財の魅力や価値についての市民への啓発が図られています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
		スポーツ交流推進事業	18,351,803
	事業の概要		
	若葉カップ全国小学生バドミントン大会を通じ、競技力向上の機会と広域的な交流を深める機会を創出します。市民が身近な校区で運動・スポーツに親しめるよう、小中学校の体育施設を開放し、運動・スポーツのできる環境の確保に努めます。また、スポーツ少年団の育成やスポーツ団体連合会の活動の支援を図ることで市民のスポーツ実施率を高めます。		

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	学校開放・夜間照明利用件数(注:工事による利用枠減少(令和4年~6年)を踏まえ目標を設定しています。)				単位	件
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	9,212 (令和元年度)	目標	9,800	9,400	9,400	9,400	9,800
		実績	5,038	9,563	10,099	9,721	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校施設を開放し、学校開放事業及び夜間照明施設事業を行いました。 ・「第40回記念若葉カップ全国小学生バドミントン大会」を開催しました。 ・「第60回市民大運動会」及び「第36回市民スポーツフェスティバル」を開催しました。 ・地域スポーツの振興を図るため、スポーツに親しむ行事等の実施を各校区に委託しました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校体育館及び武道場にて、空調工事を行いました。その影響で、利用人数は昨年度と比べ3.7%減少して今います。 ・「第40回記念若葉カップ全国小学生バドミントン大会」では、初めての試みとして、開会式を長岡京記念文化会館で行い、また予選リーグの会場を2か所(西山公園体育館と向日市民体育館)に分かれて行いました。 ・「第60回市民大運動会」は市内全10小学校区で実施しました。 ・「第36回市民スポーツフェスティバル」は総合型地域スポーツクラブのある8校区で実施しました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・「若葉カップ全国小学生バドミントン大会」は、長年全国から参加される大会として本市で開催されていますが、審判体制や駐車場不足などの課題もあるため、今後も安全で円滑、持続可能な大会運営ができるよう、実行委員会や関係機関と密な連携や入念な準備が必要です。 ・「市民大運動会」や「市民スポーツフェスティバル」の運営の担い手の人数不足や高齢化といった課題があります。

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
I:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツイベント開催や施設開放を通じ、市民がスポーツに親しむ機会を提供します。地域の絆が深まり、地域コミュニティの醸成につながるようスポーツの推進に取り組みます。 ・各種スポーツイベントの運営について負担軽減や担い手の確保などの課題について、各校区と協議し、必要な支援を行います。

基本目標	3	生涯を通じた、多様な学びによる豊かな人づくり、地域づくり	通番 41
基本施策	(9)	文化・スポーツの振興と文化財の保存活用	
実現したい学びの姿	市民が親しめる文化・芸術イベントやスポーツ大会の支援や運動・スポーツができる場所の提供により、文化・スポーツに関わる市民が増えています。また、文化財の魅力や価値についての市民への啓発が図られています。		

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
	スポーツ施設環境の整備	67,619,176	文化・スポーツ振興課
	事業の概要		
スポーツ活動の拠点である西山公園体育館やスポーツセンターの適正な維持管理に努めながら、多くの市民がライフステージに応じたスポーツを楽しむことができるよう、市民スポーツ活動の充実を図ります。			

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	体育館等施設利用者数(西山公園体育館・スポーツセンター)				単位	人
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		目標	240,000	272,500	275,000	277,500	280,000
	268,232 (令和元年度)	実績	153,657	196,762	206,842	250,350	
		内容	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化が進む中、設備・備品の修繕や更新を適宜実施し、施設の維持管理に努めました。 熱中症警戒アラート等の発令に対して、取消に伴う還付や閉鎖のルールを定め、健康被害の予防に努めました。 				

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値には届きませんでしたが、工事など、長期にわたる使用停止期間がなかったこともあり、利用人数は昨年度より20%以上増えました。 ・西山公園体育館においては、バスケットゴールの修繕や非常放送の主装置の修繕を行い、また、柔道用の畳の更新を行いました。 ・スポーツセンターにおいては、消火ポンプの修繕、防球ネットの修繕を行いました。 ・西山公園体育館及びスポーツセンターの管理運営について、指定管理者のスポーツ協会と協議検討を行いました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・両施設とも、老朽化する施設設備において、安全を最優先に、緊急度に応じた設備の計画的な更新を行う必要があります。 ・スポーツセンターについては、再整備に向けた検討を進めます。

次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I:計画通りに進めることが適当</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・西山公園体育館は、緊急度に応じた設備の計画的な更新を行っていきます。 ・スポーツセンターは、当面必要となる施設の安全性の確保、機能維持に向けた対応を行いながら、再整備に向けた検討を進めます。 </td> </tr> </tbody> </table>	方向性	対応策等	I:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・西山公園体育館は、緊急度に応じた設備の計画的な更新を行っていきます。 ・スポーツセンターは、当面必要となる施設の安全性の確保、機能維持に向けた対応を行いながら、再整備に向けた検討を進めます。
方向性	対応策等				
I:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・西山公園体育館は、緊急度に応じた設備の計画的な更新を行っていきます。 ・スポーツセンターは、当面必要となる施設の安全性の確保、機能維持に向けた対応を行いながら、再整備に向けた検討を進めます。 				

基本目標	3	生涯を通じた、多様な学びによる豊かな人づくり、地域づくり	通番 42
基本施策	(9)	文化・スポーツの振興と文化財の保存活用	
実現したい学びの姿	市民が親しめる文化・芸術イベントやスポーツ大会の支援や運動・スポーツができる場所の提供により、文化・スポーツに関わる市民が増えています。また、文化財の魅力や価値についての市民への啓発が図られています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	総合的な文化財保存活用の推進		17,674,209	文化財保存活用課
	事業の概要			
文化財保存活用地域計画の策定と新庁舎での歴史資料の展示公開を進めます。計画の策定と合わせて、恵解山古墳をはじめとする「乙訓古墳群」の保存・整備、未調査の歴史資料の収集・調査・保存に取り組みます。				

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	文化財保存活用地域計画の策定、新庁舎での歴史資料の展示公開				単位	—
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	—	目標	文化財保存活用地域計画の素案作成	文化財保存活用地域計画の作成	新庁舎歴史資料展示内容検討	新庁舎歴史資料展示設計	新庁舎歴史資料展示施工
		実績	長岡京市文化財保存活用地域計画の素案作成	長岡京市文化財保存活用地域計画の作成	新庁舎歴史資料展示室基本計画(案)の作成	新庁舎歴史資料展示室の設計業務	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・新庁舎歴史資料展示室の基本設計を作成しました。 ・国史跡乙訓古墳群のひとつである井ノ内稲荷塚古墳の一部を公有化しました。 ・恵解山古墳公園の開園10周年を契機に園内の一部を整備しました。 ・文化財啓発事業として、歴史講演会や恵解山古墳公園の開園10周年を記念したイベントの実施や市内文化財関連施設を巡るスタンプラリーの実施等に対する支援を行いました。(主催:文化財保存活用推進会議) 						

「実現したい学びの姿」に対する評価			
令和6年度の達成状況			
C (評価)	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史資料展示室の施設コンセプトを「長岡京市7つのものがたりミュージアム」として定め、オープンまでの展示制作及び演示スケジュールを基本設計にまとめました。 ・国史跡乙訓古墳群のひとつである井ノ内稲荷塚古墳の全面積2050㎡のうち477㎡を公有化しました。 ・恵解山古墳保存・活用検討懇話会において、公園の活用方法及び整備方針の意見をもとに、文化庁の補助金を活用し危険木の剪定や園路整備(階段設置)などを実施しました。 ・市内の歴史文化を体感できる場所である光明寺大書院で開催した歴史講演会では、70名の定員に対して113名の応募がありました。恵解山古墳公園開園10周年記念イベント「いげのやまフェスタ」当日は雨天により、長岡第八小学校体育館で記念式典のみ実施し、約110名の参加がありました。また、市内周遊スタンプラリーでは1箇所平均約1,000名の参加者があり、全5箇所を巡った参加者は延べ270名でした。
	課題等		<ul style="list-style-type: none"> ・乙訓古墳群の史跡保護の観点から、購入が可能な史跡を計画的に購入していく必要があります。 ・歴史資料展示室を運営するための専門人材の確保と調査研究体制を整備する必要があります。 ・地域計画の重点事業に掲げている財源確保の取り組みをはじめ、歴史資料展示室を中心施設とするまちなか博物館ネットワークを構築するために文化財の保存活用をより推進することが必要です。

次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I:計画通りに進めることが適当</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度の歴史資料展示室オープンに向け、具体的な展示内容の製作を進めるとともに、認知度の向上のための取組を進めます。 ・歴史資料展示室オープンを機に、まちなか博物館ネットワークが具現化できるよう市の歴史文化の魅力を発信するための事業をより進めます。 </td> </tr> </tbody> </table>	方向性	対応策等	I:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の歴史資料展示室オープンに向け、具体的な展示内容の製作を進めるとともに、認知度の向上のための取組を進めます。 ・歴史資料展示室オープンを機に、まちなか博物館ネットワークが具現化できるよう市の歴史文化の魅力を発信するための事業をより進めます。
方向性	対応策等				
I:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の歴史資料展示室オープンに向け、具体的な展示内容の製作を進めるとともに、認知度の向上のための取組を進めます。 ・歴史資料展示室オープンを機に、まちなか博物館ネットワークが具現化できるよう市の歴史文化の魅力を発信するための事業をより進めます。 				

基本目標4

子どもを中心につながる地域の 学びの場の推進

基本施策(10) 家庭・地域・学校の連携・協働による教育の充実
(通番43~47)

基本施策(11) 子どもを健全に育む場の充実 (通番48~50)

基本目標4

学識経験者の主な意見

※複数の項目に共通する点として、「人材の確保」と「情報の共有」がある。

<通番43 「地域見守り活動の推進」>

課題にも挙げている熱中症対策や大雨に対して例年通りの事業が実施できないことに対する開催場所や時期の見直しは、安全な実施を前提に「何を目的にいつ実施するのか」という視点も必要である。

地域見守り活動における参加者数が減少傾向にある。子どもたちが自分の地域に関心を持ち、防犯意識を高めるような取り組み(例:「安全・安心長岡京子子ども絵画展」)を継続し、より多くの地域住民が活動に関わる機会を創出することが重要である。

<通番44 「地域で支える中学校教育支援事業」>

ボランティア人材の確保が課題である。「すくすく教室」や「地域で支える中学校教育支援事業」では、ボランティアの高齢化や新規担い手の減少が課題である。新たに講師を登録し、校区に人材情報を提供する「人材登録票」の運用を開始するなど、ボランティアが活動しやすい仕組みを構築し、負担軽減を図るべきと考える。

<通番45 「家庭教育に関する学びの機会の充実」>

一人親世帯や共働き世帯の増加により、保護者が家庭教育に関する講座に参加することが難しくなっている。市や関連機関が主催する講座情報を「スクリレ」などのアプリも活用して各家庭に広く周知し、オンライン形式の導入も検討するなど、多様なライフスタイルに合わせた情報提供を強化すべきと考える。どのような情報をどのような手段で提供するのが鍵となる。平日の研修会への負担感から必要な人の参加が難しいことも推察できるので、昨年度と同様に、例えばオンラインでの実施やオンデマンドの提供等、新たな方法での実施も検討してほしい。

<通番46 「教育に関する保護者相談体制の充実」>

教育相談員の連携を密にし、1日当たりの相談件数の均等化により、1つ1つの事例の経過観察やフォローアップの時間を十分に取ることを想定していると思うが、学校とケースの情報共有する時間はしっかりと取ってほしい。「アゼリアひろば」や教育相談・就学相談窓口の情報を「長岡京市公式LINE」などを活用して積極的に周知し、保護者や児童・生徒が気軽に相談できる環境を整備すべきと考える。

<通番48 「放課後児童クラブ育成事業」>

放課後児童クラブの入会希望者が増加しており、特に長法寺小と長五小では保育スペースの拡大が急務となっている。学校施設を有効活用しつつ、施設の建替えなどによる根本的な解決に向けた計画を継続して進めるべきと考える。

基本目標	4	子どもを中心につながる地域の学びの場の推進	通番 43
基本施策	(10)	家庭・地域・学校の連携・協働による教育の充実	
実現したい学びの姿		家庭・地域・学校がそれぞれ連携・協働し、子どもたちの成長を見守る体制が充実できています。また、地域の中で安心して子育てしている保護者が増えています。	

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
		地域見守り活動の推進	1,894,880
	事業の概要		
	子どもの健やかな成長と発達を目指す地域の育成組織が、相互に連携を深め、子どもを守り育てる活動を推進することで、明るく住みよいまちづくりを進めます。		

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	地域の育成組織の事業における来場者・参加者数				単位	人
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		目標	1,120	1,830	1,990	2,020	2,040
	1,986 (令和元年度)	実績	356	1,933	1,905	1,461	
		内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校区ごとに地域団体が連携して、夏休みや冬休みの期間の夜間パトロールの実施やあいさつ運動など地域ぐるみで子どもたちを見守る取組を実施しました。 ・「安全・安心長岡京市子ども絵画展」を中央生涯学習センターで開催しました。地域の安全安心をテーマとした作品作りを通して、子どもが自らの地域に目を向け、防犯意識を高めることに繋がりました。 ・「たそがれコンサート」を青少年の活動の場の提供や少年補導委員会の啓発活動などを目的に実施しました。会場には約1,100人の観客が集まりました。 ・中学生とトークでは、長岡第四中学校の生徒と少年補導委員が各グループに分かれ、「怖いと思うこと」等をテーマに学生と話し合い、少年補導委員の役割や地域の大人の存在を知る機会となりました。 				

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>C:目標の一部を達成できなかった</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たそがれコンサートは当日の気温が高かったことから、演奏者及び観客の熱中症対策として、例年の屋外(ノンビオ広場公園)ではなく、室内(中央生涯学習センターメインホール)での開催に急遽変更しました。ホール内に入場できる人数に限りがあったことから、例年を大きく下回る参加者数となりました。 ・パトロールの一部が雨天中止となったことも参加者数の減少につながりました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度は熱中症対策や大雨等により、例年通りに事業が実施できないことが重なりました。地域での事業継続にあたっては、開催時期や開催場所の変更などの見直しが必要となっています。

次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	<p>I:計画通りに進めることが適当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動を安全に行うため、気候に合わせて取り組み内容の見直しを行います。

基本目標	4	子どもを中心につながる地域の学びの場の推進	通番 44
基本施策	(10)	家庭・地域・学校の連携・協働による教育の充実	
実現したい学びの姿	家庭・地域・学校がそれぞれ連携・協働し、子どもたちの成長を見守る体制が充実できています。また、地域の中で安心して子育てしている保護者が増えています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	地域学校協働推進事業		16,708,774	生涯学習課
	事業の概要			
<p>地域と学校が連携し、地域全体で子どもたちの成長を支える「地域学校協働活動」を推進します。放課後や週末などの子どもの活動拠点、安全・安心な居場所として、特別教室や体育館などの小学校施設において、学習やスポーツ、文化活動などの取り組みを推進する「すくすく教室」、授業や部活動の支援のほか、放課後の学習支援、図書室の開室支援、学習支援等を実施する「地域で支える中学校支援事業」など、地域住民がボランティアとして学校との協働により行う取組を推進します。</p>				

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	すくすく教室における1教室当たりの参加児童数				単位	人
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		目標	21	21	22	22	23
	21 (令和元年度)	実績	26	16	16	17	
内容		<p>・すくすく教室：全小学校区において、コーディネーターを中心とした各校区の運営組織によりすくすく教室を実施しました。のべ開催日数405日、プログラム数919、参加児童数15,627人となり、いずれも増加しました。</p> <p>・地域で支える中学校教育支援事業：全中学校において、地域ボランティアによる教育支援を実施しました。学習支援、相談支援、部活動支援、図書室開室支援、授業・行事支援などを行い、実施日数はのべ1,020日、参加生徒数は15,076人となり、いずれも増加しました。</p>					

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>C:目標の一部を達成できなかった</p> <p>達成状況</p> <p>コロナ禍以降、学年やクラスごとに分けて教室を開催することが増え、1教室当たりの参加児童数の平均は16人～17人で推移しており、この傾向はしばらく続くと思われます。一方、令和6年度の、すくすく教室の開催日数、ボランティア数、参加児童数は前年度よりさらに増え、児童生徒の体験、学習の場に地域の大人が関わり、子どもたちが地域とつながる機会や、世代を超えた交流の機会を確保することができました。</p>
	課題等	<p>ボランティアの高齢化や、共働き増加や定年延長による新規ボランティアの成り手の減少があり、今後のボランティア確保が課題です。</p> <p>現在、活動されるボランティアがより活動しやすい仕組みづくりも必要です。</p>

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
I:計画通りに進めることが適当	<p>令和7年度から新たに、すくすく教室の講師を勤める人材に登録いただき、活動を希望される校区に人材情報を提供する「人材登録票」の運用を開始します。講師人材の活躍の場を広げ、またボランティア講師が不足する校区のすくすく教室に人材情報を提供することが目的です。すくすく教室ボランティアスタッフの講師探しの負担を軽減する効果も期待されます。</p>

基本目標	4	子どもを中心につながる地域の学びの場の推進	通番 45
基本施策	(10)	家庭・地域・学校の連携・協働による教育の充実	
実現したい学びの姿		家庭・地域・学校がそれぞれ連携・協働し、子どもたちの成長を見守る体制が充実できています。また、地域の中で安心して子育てしている保護者が増えています。	

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	家庭教育に関する学びの機会の充実		-	生涯学習課
	事業の概要			
子育ての責務や親としての役割、子どもとのかかわり方など、保護者が子育てに関して、学ぶ機会を提供します。				

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	家庭教育に関する講座等の情報提供				単位	-
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	情報提供の実施	目標	情報提供の実施	情報提供の実施	情報提供の実施	情報提供の実施	情報提供の実施
		実績	情報提供の実施	情報提供の実施	情報提供の実施	情報提供の実施	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAに対し、京都府や乙訓教育局などが主体となって実施される家庭教育に関する講座、催し(親学びフォーラム、京都府PTA指導者研修会など)などの案内、周知を行いました。 ・大阪大学大学院連合小児発達学研究科と長岡京市の包括協定締結記念事業として行われた長岡京市民講座について、長岡京市PTA連絡協議会に共催いただき、PTA全体へ案内、周知を行いました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府、乙訓教育局が主体となって実施される家庭教育に関する講座や催し、また市が実施する講座や催しについてPTAに案内し、一定数の方にご参加いただくことができました。 ・「保護者と学校、どちらも喜ぶPTAへ」「子どもの脳を傷つけない子育て~マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ」「ネット・スマホ依存になった子どものために親ができること」などについて保護者に学んでいただくことができました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・一人親世帯、共働き世帯の増加により、平日の昼間の時間帯に研修に参加することへの負担感が増えています。 ・市内の講座等の情報について、保護者を始めとした家庭教育の関係者に広く提供する必要があります。

次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	<p>1:計画通りに進めることが適当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市、教育委員会や関連機関が主催、共催する講座、催しについて、親世代に学んでいただける内容や子育てに関する内容のものについては、スクリーン配信なども活用しながら、各家庭へ周知、案内します。

基本目標	4	子どもを中心につながる地域の学びの場の推進	通番 46
基本施策	(10)	家庭・地域・学校の連携・協働による教育の充実	
実現したい学びの姿	家庭・地域・学校がそれぞれ連携・協働し、子どもたちの成長を見守る体制が充実できています。また、地域の中で安心して子育てしている保護者が増えています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
		教育に関する保護者相談体制の充実		5,230,079
	事業の概要			
	いじめ、不登校などの教育に関する相談のほか、子どもの発達や子育てに関する相談について、専門的な指導やアドバイスが受けられるよう、相談体制の充実を図ります。また、相談窓口の周知を行います。			

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	教育相談の実施				単位	—
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		教育相談の実施	目標	教育相談の実施	教育相談の実施	教育相談の実施	教育相談の実施
		実績	教育相談の実施	教育相談の実施	教育相談の実施	教育相談の実施	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理士による保護者の心理相談や児童生徒へのプレイセラピー(遊戯療法)を実施し、心理面でのサポートを行いました。 ・来談の難しい保護者に対しては、電話相談を取り入れ、継続的な繋がりを保って支援しました。 ・学級担任、管理職、学年主任、養護教諭や通級指導教室担当者など、児童生徒をとりまく学校教職員と連携して相談活動を行いました。 ・発達検査(WISC-V・新版K式発達検査2020・読み書きスクリーニング検査(STRAW-R))を行いました。 ・長岡京市公式LINEを使って相談窓口の情報提供を行い、LINEからの教育相談の受付も行いました。 ・2学期に市内全児童生徒・保護者向けに「アゼリアひろばのご案内」のパンフレットを配布し、アゼリアひろばと教育相談・就学相談窓口の情報提供を行いました。 ・教育相談員の資質向上のために、大学教授等によるスーパーバイズ(SV)で事例研究を行いました。 ・今年度も、就学相談員の学校訪問を実施し、参観や担任・管理職との懇談を行い、児童生徒へのよりよい指導や支援について一緒に検討しました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	<p>A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)</p> <p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の延べ件数は1,663件、電話相談件数は678件でした。 ・就学相談の延べ件数は1,429件、電話相談件数は763件でした。 ・発達検査を119件行い、検査結果などから認知の特性を把握し、アセスメントの報告書を作成した。また、保護者、学級担任、各校の特別支援教育コーディネーターと面談を実施し、今後の支援について関係者で方針を共有し進めることができました。 ・「アゼリアひろば」のパンフレットの配布によって問い合わせや体験希望者が増えました。 ・就学相談員の学校訪問は、各校で校内における特別支援の在り方について、担任、管理職含め、学校全体で理解を深め、支援の方向性を検討する良い機会となりました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・相談件数の増加で、教育相談員とプレイセラピスト、学校などの連携機関とケースの情報共有をする時間が十分にとれない曜日があります。 ・市役所内の他部署や療育機関等との連携が必要なケースが増えています。

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は教育相談員同士の連携を密にし、曜日による相談の偏りをなくすことで、連携機関との情報共有が十分にできるよう、努めます。 ・他部署や他機関との連携が当センターとして組織的に対応できるような体制を整えます。

基本目標	4	子どもを中心につながる地域の学びの場の推進	通番 47
基本施策	(10)	家庭・地域・学校の連携・協働による教育の充実	
実現したい学びの姿		家庭・地域・学校がそれぞれ連携・協働し、子どもたちの成長を見守る体制が充実できています。また、地域の中で安心して子育てしている保護者が増えています。	

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	児童館子どもの居場所づくり事業(子育てサロン)		42,263,849	北開田児童館
	事業の概要			
子育て世代の不安感、孤独感を解消するため、子育てサロンなど子育て世代を支援する事業を継続的に実施し、来館者同士の交流を推進します。				

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標①	児童館利用者の満足度(乳幼児親子)				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	78 (令和元年度)	目標	80	80	80	80	80
		実績	92.0	88.0	97.0	96.0	
	目標指標②	総来館者数(乳幼児親子)				単位	人
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	4,744 (令和元年度)	目標	200	300	400	600	800
		実績	485	1,360	2,400	2,563	
	内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児親子の交流の場としてキッズルームを開設しました。 ・また、6年度から子育てコンシェルジュに来館していただき、キッズルーム利用者の相談に対応しました。 ・子育てサロンは計34回開催しました。 ・子育てサロンを開催することで児童館の認知度も上がり、乳幼児親子の来館者数は令和5年度より163人増の2,563人となりました。 					

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上) 達成状況 ・乳幼児親子は昨年度より163人増の2,563人となりました。 ・子育てサロンを開催したことにより、児童館の認知が広がり来館者増に繋がりました。 ・子育てコンシェルジュに来館していただき、キッズルーム利用者の相談に対応しました。
	課題等	・今後についても、乳幼児親子の交流の場として、児童館の認知を広げていく必要があります。

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	・アンケート結果などを活かし、ニーズにあった事業を行い、また、子育て支援課等他課にも情報提供を行い、新規来館者の獲得を目指します。

基本目標	4	子どもを中心につながる地域の学びの場の推進	通番 48
基本施策	(11)	子どもを健全に育む場の充実	
実現したい学びの姿	子どもたちが、多様な場所において体験や交流など充実した時間を過ごすことで、健全に育っています。		

概要				
P (概要)	実施計画名称		決算額(円)	担当課
	放課後児童クラブ育成事業		348,207,846	生涯学習課
	事業の概要			
放課後の児童を対象に小学校敷地内で家庭に代わる生活の場を確保し、児童の健全な育成を図るとともに、保育施設の拡充などのサービス内容の充実を図り、保護者の仕事と子育ての両立を支援します。				

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標	狭隘化・老朽化した施設の整備				単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		目標	—	長岡第九小整備	—	長岡第四小整備	—
	—	実績	—	九小整備完了	四小整備完了	—	—
内容	<ul style="list-style-type: none"> 施設の狭隘化等により、施設整備が必要な長法寺小・長八小の建替敷地調査を実施しました。 令和7年度の入会申請受付を行ったところ、長法寺小において120人、長五小において300人以上の入会申請があったことから、新たに学校施設を借用し、保育スペースを確保しました。 市公式LINEより入会申請をオンラインで手続き出来るようにして、入会希望者の利便性向上を図りました。 						

「実現したい学びの姿」に対する評価			
令和6年度の達成状況			
C (評価)	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	<ul style="list-style-type: none"> 長法寺小・長五小において新たな保育スペースを確保するため、学校施設を借用するとともに必要な備品等の整備を行い、狭隘化の軽減を図りました。 個別施設計画に基づき、狭隘化や設備面での課題を解決するため、クラブ施設の建替敷地調査を実施し、今後の整備に向けた建替地選定の基礎資料を作成しました。 神足小、長法寺小、長八小について、常時学校施設を保育室として借用し、必要な保育スペースを引き続き確保しました。
	課題等	入会児童数の増加により保育スペースの拡大が必要なクラブがあります。	

次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	<ul style="list-style-type: none"> 長法寺小放課後児童クラブの建替えに向けて基本・実施設計を行います。 入会児童数の増加に合わせて、学校の協力のもと、教室や会議室、体育館等の様々な学校施設を活用しながら、保育スペースの確保を行います。

基本目標	4	子どもを中心につながる地域の学びの場の推進	通番 50
基本施策	(11)	子どもを健全に育む場の充実	
実現したい学びの姿		子どもたちが、多様な場所において体験や交流など充実した時間を過ごすことで、健全に育っています。	

概要			
P (概要)	実施計画名称	決算額(円)	担当課
		児童館子どもの居場所づくり事業(子どもの遊び場等)	42,263,849
	事業の概要		
	児童館が子どもたちにとって快適な居場所となるよう、児童館事業の充実を図るとともに利用ニーズに沿った運営を行います。		

令和6年度の取組							
D (取組)	目標指標①	児童館利用者の満足度(乳幼児親子以外)				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	78 (令和元年度)	目標	80	80	80	80	80
		実績	74(注)	90.0	87.0	94.0	
	目標指標②	総来館者数(乳幼児親子以外)				単位	人
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	10,111 (令和元年度)	目標	1,800	2,700	3,600	5,400	7,200
		実績	1,650	3,476	6,444	11,401	
	内 容	<ul style="list-style-type: none"> 児童教育相談員を配置することにより、子どもにとって学習や学校などの相談をしやすい環境を提供し、学習意欲の向上や習慣づけを行いました。 児童館のくらぶ活動を通年で開催しました。子ども達の協調性などを養うことができました。 (注)令和3年度のくらぶ活動は、1月20日以降活動が行えず、電子メールで保護者宛に満足度調査を行いました。無回答が多く満足度が低下しました。					

「実現したい学びの姿」に対する評価		
令和6年度の達成状況		
C (評価)	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上) 達成状況 ・満足度、総来館者数ともに目標値を上回る結果となりました。 ・特に、総来館者数については、コロナ禍前には及ばないものの、近い人数まで回復しています。
	課題等	・学年により来館者数に差があるため、利用者が来館しやすい環境づくりや事業を行い、広く来館者を増やす必要があります。また、来館者数の増加により、日によっては混雑して過ごしにくい環境になるため、各部屋の利用方法を検討する必要があります。

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
1:計画通りに進めることが適当	過去の実績に捉われず事業内容を変化させ、広いニーズにあった事業を行い、新規来館者の獲得を目指します。